

長崎経済同友会／長崎商工会議所 合同

沖縄視察報告

平成 29 年 6 月 20 日(火)～21 日(水)



長崎経済同友会 交流の産業化委員会

長崎商工会議所 観光消費拡大委員会

■ 目 次 ■

沖縄視察参加者名簿	2
沖縄視察スケジュール	4
視察目的	5
1. 沖縄観光推進ロードマップについて ～沖縄観光の現状と施策～	6
2. 沖縄観光教育と沖縄観光コンベンションビューロー (OCVB)の取り組みについて	12
3. 沖縄県におけるレンタカー業界の現状と課題	14
4. 沖縄県物産公社の概要と取り組みについて	16
5. ホテルおよび那覇空港観光案内所の視察	18
6. 参考資料	20

長崎経済同友会 / 長崎商工会議所合同

沖縄視察参加者

平成29年6月20日(火)～21日(水)

順不同・敬称略

N	氏名	団体名	団体役職	会社・役職	備考
1	宮脇 雅俊	長崎商工会議所 (一社)長崎県観光連盟	会頭 会長	(株)十八銀行 取締役会長	
2	市川 雅夫	長崎商工会議所 観光消費拡大委員会	委員	アイティーアイ(株) 代表取締役会長	
3	伊達 昌宏	長崎商工会議所 観光消費拡大委員会	委員	やまさ海運(株) 代表取締役社長	
4	福田 公成	長崎商工会議所 副会頭代理	代理	(株)メモリード 専務取締役	
5	松永 安市	長崎商工会議所	専務理事		
6	坂井 俊之	長崎経済同友会	代表幹事	協和機電工業(株) 代表取締役会長	
7	平松 喜一郎	長崎経済同友会	副代表幹事	松藤グループ (株)エムエスケイ) 顧問	
8	山田 晃	長崎経済同友会 交流の産業化委員会	委員長	山電(株) 代表取締役	
9	小田 博之	長崎経済同友会 交流の産業化委員会	副委員長	全日本空輸(株) 長崎支店長	
10	木戸 郁穂	長崎経済同友会 交流の産業化委員会	副委員長	住友商事九州(株) 取締役長崎支店長	
11	鈴木 茂之	長崎経済同友会 交流の産業化委員会	副委員長	(株)鈴木商店 代表取締役社長	
12	阿倉 宏隆	長崎経済同友会 交流の産業化委員会	委員	ANAクラウンプラザホテル長崎グラバービル 常務取締役総支配人	
13	瀬戸 正志	長崎経済同友会 交流の産業化委員会	委員代理	(株)JTB九州 長崎支店	
14	小川 洋	長崎経済同友会 総務委員会	委員長	(株)長崎経済研究所 代表取締役社長	
15	松川 久和	長崎県文化観光国際部	部長		
16	土井口 章博	長崎県文化観光国際部	国際観光振興室長		
17	浦 真樹	長崎県文化観光国際部	観光振興課長		
18	小俵 健嗣	長崎市文化観光部 観光推進課 国内誘致係	主事		
19	村田 嘉弘	長崎大学	副学長 (情報担当)		
20	木須 照章	(一社)長崎県観光連盟	課長代理		
21	外園 秀光	(一社)長崎国際観光コンベンション協会	事務局長		
22	竹中 梓	(一社)長崎国際観光コンベンション協会	MICE振興部長		
23	加藤 純	長崎都市経営戦略推進会議	事務局長		
24	平山 浩司	長崎商工会議所	業務課係長	事務局	
25	三縄 周治	長崎経済同友会	事務局長	事務局	
26	荒木 義文	長崎経済同友会	事務局次長	事務局	
27	島田 智之	沖縄ソーリスト(株) 福岡支店		添乗員	

懇親会参加者（沖縄経済界）

順不同・敬称略

No	氏名	団体名	団体役職	会社・役職	備考
1	石嶺 伝一郎	那覇商工会議所	会頭	沖縄電力(株) 代表取締役会長	イシミネ デンイチロウ
2	玉城 徹也	那覇商工会議所	副会頭	(株)國場組 代表取締役社長	タマキ テツヤ
3	福治 嗣夫	那覇商工会議所	専務理事		フクジ ツグオ
4	大嶺 満	沖縄経済同友会	代表幹事	沖縄電力(株) 代表取締役社長	オオミネ ミツル
5	淵辺 美紀	沖縄経済同友会	副代表幹事	(株)ビジネスランド 代表取締役社長	フチベ ミキ
6	平良 健	沖縄経済同友会	副代表幹事代理	沖縄ツーリスト(株)代表取締役社長 (東副代表幹事の代理)	タイラ ツヨシ
7	譜久山 健	(一財)沖縄観光コンベンション ビューロー	常務理事兼 事務局長		フクヤマ ケン
8	島袋 芳敬	(株)沖縄県物産公社	代表取締役社長		シマブクロ ヨシノリ
9	大宿 永尚	(株)沖縄県物産公社 イベント推進課	課長		オオヤド エイショウ

※ 沖縄県は議会対応のため不参加

『長崎経済同友会・長崎商工会議所合同 沖縄視察会』スケジュール

長崎経済同友会：交流の産業化委員会、長崎商工会議所：観光消費拡大委員会主催

(視察目的) 観光客の増加の勢いが続き、観光が非常に好調な沖縄を訪問するもので、沖縄県、沖縄観光コンベンションビューローの観光推進に向けた取り組み等をお伺いし、長崎経済同友会のインバウンドを含めた観光産業による地域振興策の研究並びに長崎市が進めるDMO体制推進の参考とする。

6月20日(火)	11:15 長崎空港 結団式 (空港特別待合室A)	ANA1871便	12:50~14:00 那覇空港 昼食 中国料理「花林」 空港ターミナル 4F	14:20~18:10 視察 1 会場(1~3) 沖縄県青年会館 1. 沖縄県から説明・質疑応答 14:30~15:30 司会:山田委員長(同友会) 御礼挨拶:宮協会頭 ・沖縄観光推進ロードマップ(文化観光スポーツ部) 観光政策統括監 渡久地一浩(とぐちかずひろ) 観光文化企画班班長 仲里和之(なかつかずゆき) 2. 沖縄観光コンベンションビューローの説明・質疑応答 15:40~16:40 司会:木戸副委員長(同友会) 御礼挨拶:坂井代表幹事 ・沖縄観光コンベンションビューローの取り組みと観光教育(コンベンションビューロー) 3. 沖縄県レンタカー協会の説明・質疑応答 16:50~17:20 司会:小田副委員長(同友会) 御礼挨拶:坂井代表幹事 ・沖縄県のレンタカーの現状 4. 県物産公社運営店舗「わした」視察 17:40~18:10 那覇国際通り 司会:鈴木副委員長(同友会)	18:30~19:00 ホテル ANAクラウンプラザ 沖縄ハーバー ビュー	貸切バス	19:00~21:00 懇親会 司会:松永専務 挨拶:宮協会頭 乾杯:石嶺那覇商議所会頭 中締め:坂井代表幹事 会場 ANAクラウンプラザ沖縄ハーバービュー 2階アイトンドブリークス 円卓(着座) 招待者 ・沖縄観光コンベンションビューロー ・沖縄県物産公社 ・沖縄経済同友会 ・那覇商工会議所	21:00~22:00 2次会 居酒屋 「波照間」 JCCグループ 場所:那覇国際通り	6月21日(水)	08:30 ホテル チェックアウト 出発	貸切バス	09:00~12:00 視察 2 5. 沖縄県物産公社視察 09:00~10:00 司会:山田委員長(同友会) 御礼挨拶:宮協会頭 ・観光客に対する県産品販売および販路拡大の取り組み 会場:沖縄産業支援センター 6. ホテル視察 10:20~12:00 案内:瀬戸氏(JTB九州) ①かみゆしアーバンリゾートナハ 10:20~10:50 ②ハイアットリージェンシー那覇 11:00~11:30 ③ツアーストイフオナーションセンター 11:45~12:00 ツアーストイフオナーションセンターは見学のみ	12:30~13:10 星食 サムズセーラー ン国際通り店 場所:那覇国際通り	貸切バス	13:30~14:30 視察 3 7. 那覇空港観光案内所視察 13:30~14:30 案内:瀬戸氏(JTB九州) 会場:那覇空港観光案内所	貸切バス	14:30/15:30 那覇空港 離団式	ANA1872便	16:55 長崎空港
----------	------------------------------------	----------	--	---	---	------	---	---	----------	-------------------------------	------	---	--	------	---	------	----------------------------	----------	---------------

視察目的

観光客の増加の勢いが続き、観光が非常に好調な沖縄を訪問し、沖縄県や沖縄観光コンベンションビューロー等の観光に向けた取り組みをお伺いし、インバウンドを含めた観光産業による地域振興策の研究並びに長崎市が進めるDMOの体制推進の参考とする。

1. 沖縄観光推進ロードマップについて ～沖縄観光の現状と施策～

沖縄県文化観光スポーツ部

観光政策統括官 渡久地 一浩 氏
観光政策課 課長 前原 正人 氏
観光政策課 班長 仲里 和之 氏
観光政策課 主査 渡久地 政樹 氏



沖縄観光の現状と課題

■入域観光客数と観光収入の推移

昭和47年度の入域観光客数56万人、観光収入324億円から、その後右肩上がり、米
国同時多発テロや東日本大震災の影響により
減少した年度があったものの、平成28年度で
は入域観光客数877万人を記録し、観光収入
は平成27年度6,022億円で過去最高とな
っている。

■国内観光客と海外観光客の割合（平成28年度実績）

観光客数877万人のうち、国内観光客664万人(75.7%)、海外観光客213万人(24.3%)。海外観光客の内訳では、台湾65.2万人、韓国45.2万人、中国本土43.5万人と続く。昨年はタイからの直行便が就航してタイからの観光客も1万人を超えている。

■国内観光客の推移（H25年度～H28年度）

H25年度：595.3万人 H26年度：618.4万人 H27年度：626.6万人
H28年度：664万人
(東京方面326.8万人、関西方面137.3万人、中部方面54.8万人、九州方面82.1万人)

■海外観光客の推移（H24年度～H28年度）

H24年度：38万人 H25年度：63万人 H26年度：99万人
H27年度：167万人 H28年度：213万人（空路：143万人、海路：70万人）

■那覇空港週間就航便数（国際線）

H29年4月末：192便（平成25年78便の2.5倍）
国際線ターミナルが平成26年に新しくなり、それ以降は急激に伸ばしている。

■クルーズ船寄港（H29年見込）

平成28年：387回 平成29年見込み502回
平成28年の内訳は、那覇港が193回、石垣港が95回、平良港が86回で、主にこの3
つの港で寄港数が増えている。那覇港では貨物バースにも寄港させている状況で、今後は石垣
港や平良港への入港分散化を促進していく予定。

■月別観光客数（H28年度）

7月(805千人)、8月(927千人)、9月(793千人)がピーク。冬場と春先がボトム期で、沖縄の観光は閑散の平準化が大きな課題。ただ、月毎の推移をみていくと、4年連続で過去最高を記録していて着実にボトムアップされている。

■平均滞在日数（H27年度）

外国空路客4.85日、国内客3.89日、外国海路客1.00日、平均3.85日。

■一人当たりの観光消費額（H27年度）

外国客（空路）107,302円 国内客 74,083円 外国客（海路）25,973円
平均75,881円

全体的には緩やかに伸びており、中国大陸のお客様の客単価が高くなっている。

沖縄観光推進ロードマップについて

■沖縄県の観光振興に関する計画の位置づけ

- 「沖縄21世紀ビジョン基本計画」
→沖縄振興特別措置法に基づき策定
- 「第5次沖縄県観光振興基本計画」
→沖縄県観光振興条例に基づき策定
(いずれも計画期間は、平成24年度から平成33年度の10年間)
- 「沖縄観光推進ロードマップ」
(平成27年度から平成33年度までの7年間)
→基本計画で定められた目標達成に関する取り組みについて、関係機関が連携して推進していく実施計画。

「沖縄21世紀ビジョン基本計画」の中間見直しに併せて、「第5次沖縄県観光振興基本計画」の見直しを行っている。ポイントは以下のとおり。

- ・最近のインバウンドの増加を踏まえ、観光収入、観光客数等の目標値の上方修正
→観光収入を1兆円から1.1兆円。観光客数を1,000万人から1,200万人。
- ・計画策定後（H24年度）の沖縄観光を取り巻く環境の変化への対応
→那覇空港第2滑走路の整備、大型MICE施設の整備等

■「沖縄観光戦略実行会議」

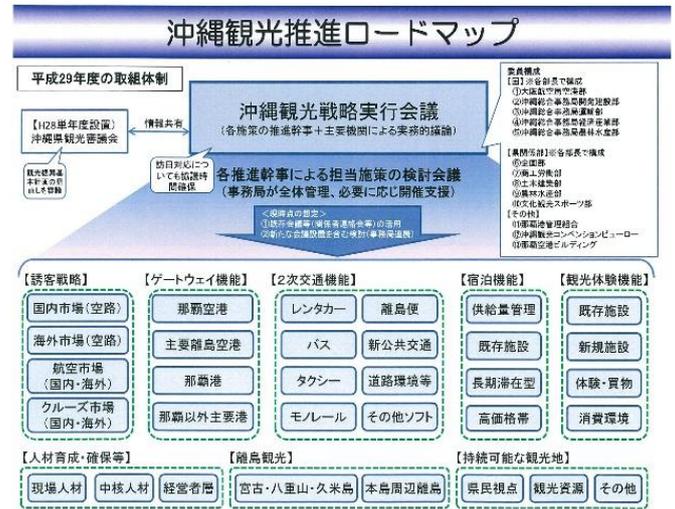
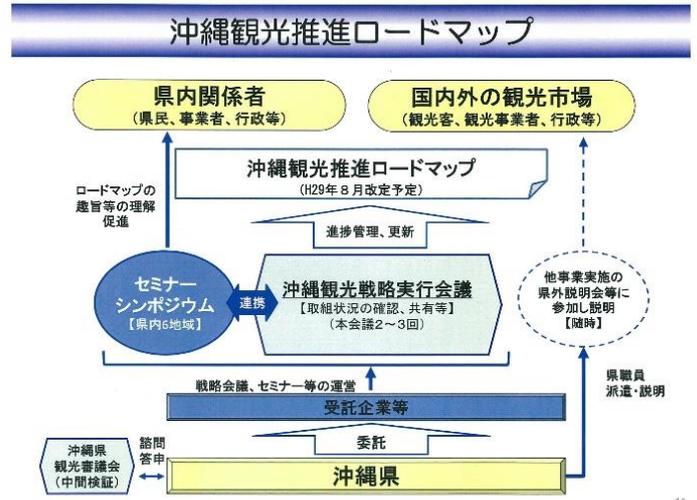
「沖縄観光推進ロードマップ」の実行部隊で平成28年度から設置。この中で関係機関が各々の取り組み状況を確認し、課題や進捗の共有を図っている。年2回ほど会議を開催し、併せて、県民や県内事業者へ周知を図るため、セミナーやシンポジウムを開催している。

実行会議は、国の関係機関、沖縄県等の13の委員で構成される。実行会議の中に民間はいないが、同会議の配下にあるテーマ毎に幹事を設けており、そこに民間が関わっている。

(実行会議の前は、沖縄観光推進戦略会議と呼んでいた。戦略会議は沖縄県、国の関係機関、民間団体（モノレール、バス、タクシー、旅行業界、航空会社、観光協会など）等、27名程度の委員で構成されていた。)

■「沖縄観光推進ロードマップ」の進捗

- ①沖縄観光は現在、非常に好調に推移。観光客数1,200万人の達成の期待が高まる。
- ②一方、受入態勢の対応の遅れが懸念される。
- ③第5次沖縄県観光振興基本計画における観光収入1.1兆円等の目標達成のため、関係機関が連携し、各種施策に取り組む。



■「沖縄観光推進ロードマップ」の主な検討事項

- ①発地（国内、海外）における市場動向を踏まえ、誘客戦略を確立
- ②受入態勢の課題を洗い出し、対応策の検討
- ③目標達成に向けて、既存・新規の施策の再整理及び最適化等

■「沖縄観光推進ロードマップ」の主な施策の実施方針

目標項目は、①需要の獲得（誘客）、②航空座席数の増加、③宿泊供給量の増加、④持続可能な観光リゾート地の形成に必要な施策である。平成28年度以降の客数は小幅増と見込み、受け入れ体制重視への政策にシフトしていく。平成32年度は第2滑走路が供用開始するので、次の中長期計画を検討する予定。

第5次沖縄県観光振興基本計画の見直し

■沖縄観光の全般的な課題

- ①年間を通じた入域観光客数の平準化・滞在日数の延伸
- ②観光客一人あたり消費額の増加
- ③人材の育成、確保
- ④ハード・ソフト両面の受入基盤の計画的な整備
- ⑤航空路線、クルーズ路線等の安定確保及び拡大

■第5次沖縄県観光振興基本計画の目標値の達成状況

観光客数全体は順調であるが、「一人当たりの県内消費額」、「平均滞在日数」については、目標達成に向けて更なる取り組みが必要な状況。沖縄観光を発展させる新たな取り組みや環境の変化などを観光施策へ反映させるため、「第5次沖縄県観光振興基本計画」を平成29年3月に改定。

沖縄県の主な施策

■「那覇空港の国内線・国際線ターミナルの連結」（平成31年1月全面供用開始予定）

国内線ビルと国際線ビル間を170メートルの連結ターミナルで繋ぐもので、商業エリアは現在の1.3倍になる。また、第2滑走路増設に向けて空港機能を拡充していく。

■「大型MICE施設の整備」

（平成32年9月供用開始目標）

- ・ミーティング、インセンティブ、トラベル（5,000～10,000人規模）
- ・コンベンション、イベント（最大30,000人規模）

■「MICEの戦略的展開による新産業の創出」

MICEは観光との関わりが強いが、知的交流を通じた地域産業の振興と都市ブランド力の強化に寄与する。このため、MICE活用による各産業の成長発展とMICE産業の創出を目指し、産学官で構成する新たなMICE推進組織を設立予定（平成29年夏ごろ）

■「海外誘客施策」（平成29年度の基本戦略）

重点市場（台湾・香港・韓国・中国）

- ①定期便の安定化、②直行便の実現（離島への就航促進）、③旅行市場への直接的なPR、④リブランディングと旅客ハブ形成

戦略開拓市場（タイ・シンガポールなど）

- ①直行便の実現、②トランジット商品造成、③旅行業界での認知度向上、④旅行市場への

大型MICE施設の整備（2020年9月供用開始目標）

- 【整備目的】
- 経済波及効果が高く、付加価値の高いMICEの取り込み
 - 成長著しいアジア地域や国内外の大型化するMICE需要の取り込み

大型コンベンション、展示会、買本市の誘致

大型MICE施設の整備

多目的ホール ～7,500㎡	■ミーティング、インセンティブ・トラベル 5,000～10,000人規模 ⇒5,000人会議、分科会、併設展示会の同時開催が可能 ⇒テイナー形式で4,000人の収容が可能
中小会議室 20～30室	■コンベンション・イベント 最大30,000人規模 ⇒2万人のコンサートが開催可能 ⇒展示場、多目的ホール、ホワイエを一体的に利用することで、4万㎡の展示会に対応可能
展示場 30,000㎡	

【整備イメージ】



直接的なPR

新規開拓市場（欧州、北米、豪州、ロシア）

→①市場の把握及びネットワーク構築、②トランジット商品造成、③旅行業界での認知度向上、④旅行市場への直接的なPR

潜在市場（インド、中東）

→①市場の把握及びネットワーク構築

■「国内誘客の取組」（シーズンプロモーションの継続）

- ・旬香周島（しゅんかしゅうとう）おきなわキャンペーン
- ・カップルアニバーサリーーツーリズム拡大事業

■「クルーズ船プロモーション事業」

入域観光客数および観光収入の増加に向け、①誘致活動、②セールスプロモーション、③寄港支援、④受入態勢強化を行う。

■「観光人材育成プラットフォーム構築事業」

県内観光関連企業・団体が対象

1. 企業向け研修

(1)講師派遣型研修の支援→研修に係る費用（講師謝金・交通費）の一部を助成

(2)集合型研修の実施

2. 語学人材等確保の支援

(1)県外・海外就職相談会への出展費用、渡航費用の一部を助成

(2)外国人県就労希望者と観光関連企業・団体とのマッチング支援

■「受入インフラ整備支援事業」

【助成対象】外国人観光客を受け入れる県内民間施設

（翻訳支援）翻訳が必要なコンテンツ（パンフ、メニュー、HP等）を作成する場合、翻訳費用の一部を助成

（免税システム導入支援）消費税免税に必要な書類作成等のシステム導入に係る経費の一部を助成



沖縄県 国内誘客の取組（シーズンプロモーションの継続）
旬香周島 おきなわキャンペーン

1. 季節毎のテーマ
(1)春
卒業旅行（2・3月）
三世代旅行（4～6月）
(2)夏
家族旅行（7～9月）
学生旅行（8・9月）
(3)秋
女子旅（9～12月）
(4)冬
アクティブシニア層（12～2月）

2. 誘客手法例
(1)キャンペーンサイト
(2)航空会社タイアップ
(3)旅行会社タイアップ
(4)メディア展開 等

質疑応答

Q：実行部隊はどのようなメンバーでやられているのか。インフラ関連、制度設計は県でやられると思うが、どれ位の人数か。誘客・誘致は県の方が海外に行ってやられているのか、あるいはコンベンションビューローと組んでいるのか。具体的に誰がどのようにやられているのか。

A：ロードマップに記載してあることは、基本的には観光の部局だけにとどまらない。観光部局だけで誘客・受入をやっても限界があるので、空港・港湾・道路といった様々な観光インフラ、2次交通（バス、タクシー、レンタカー）等の様々な事業者との調整が出てくる。ロードマップを作ったときに、27団体による沖縄観光推進戦略会議を作った。その中には、県や国の観光部局だけではなくて、2次交通対策を担当する企画部や道路港湾を整備する土木部について、県および国も加わった。

さらに民間や市町村の観光協会やそれを統括するコンベンションビューロー、旅行会社の組合、ホテルの組合、いろんなプレイヤーの方々に集まってもらって、まずはこのロードマップを作成してもらった。実際にその翌年からロードマップの運用が始まっていくのだが、その際に全員を集めるのは非常に煩雑になるので、推進幹事というものを作った。例えば、交通に関するものであれば、県の担当の企画部に事業者等を集めてもらって、共有しているロードマップの方向性のもと、どういう施策を打っていくのかという話し合いをやってもらった。港湾や空港も一緒だ。

今ある沖縄観光戦略実行会議は、むしろ各々の立場で観光振興に対する取り組みをしていただいたものについてロードマップの進捗管理を確認するための会議である。観光の誘客や受け入れ等の本来の観光部門がやるものについては、県で予算措置をして観光コンベンションビューローが実施部隊に

なっている。その企画については、県が担当している。

従来から、港湾や空港は土木部の仕事であるが、一番大切だったのは県の一番重要な産業が観光であることを認識してもらって、観光の目標である観光収入1兆円・入域観光客数1千万人を平成33年度までに達成するためには、どういふことをしないとイケないのか、というスケジュール感が大切だ。例えば、第2滑走路はそれに間に合うように作ってもらうとか、クルーズ客が増加しているのでターミナルやバースの整備等についても、それを考慮してもらってスケジュールリングしてもらうとか、そういった目標を共有して各々の仕事としてやっていただくというのがロードマップの一番の基本だ。当然、第2滑走路やクルーズのバース整備については、国も関わってくる。

Q：沖縄の観光戦略は、土木など全て入っており大変素晴らしい。12ページのロードマップで県が受託企業に委託して、実行会議開催やセミナーシンポジウムとあるが、ここを説明してもらいたい。

A：年2回実行会議を開催し、年6回セミナーシンポジウムを開催する。そこの運営を委託しているということであり、政策の中身は実行会議の中で議論している。

Q：1兆円の目標設定について、今回の資料には無いが以前拝見した資料には、県民所得と連動して、平成23年の県民所得が200万円ちょっとで、1兆円を達成できれば平成33年には270万円になると書かれていたと思う。そもそも設定されている1兆円の考え方が、県民所得の270万円を目標にするから1兆円にされたのか、1兆円を設定したことによって結果として270万円になるよ、としたのか？ 要は、観光そのものよりも地域経済の振興だと思っている。地域経済振興の結果、県民所得が上がっていくのが長崎の最大の課題であると思っている。その辺をどのように考えて目標値を設定されたのか？

A：言われた後者の方が現状に近い。県民所得の目標から1兆円を出したのではなくて、1兆円・1千万人をスローガンとして頑張っ、その結果として県民所得を引き上げていく形だ。このスローガンは、当時の知事の公約にもしていた。それが先あって、施策が後についてきた格好だ。

Q：これだけの推進体制を同じ目標・目的を共有して進めていくのは、私も担当部長として非常に難しいと実感している。各々の部局が各々の目的を持って突き進んでいる中であって、なかなか観光というものを一つの共通目的に共有できていない実態がまだある。このレベルまで持っていくまでに、どのような努力をされたのか。私も観光推進体制を全部局の各々の仕事として、観光産業が本県にとっての重要産業だという認識に持っていくために一生懸命取り組んでいるのだが、ご助言頂ければ有難い。

A：いつ頃からかは明確に言えないが、沖縄県では観光を一番のリーディング産業と位置付けている。経済振興のキーになるのは観光だということがある。米国のテロ事件があったときに、沖縄には米軍基地があるということで、沖縄の観光がかなりダメージを受けた。このときに、沖縄県はかなりテコ入れをし、全国の皆様からもかなりの応援をいただいた。これが1つの契機となり、我々観光サイドのみならず沖縄県民が「観光は沖縄にとって大切なんだ」と認識していることこそが重要だと思っている。ただ一方で、県民所得との兼ね合いがどうかということ、県民所得に締める観光



▶ 平成28年度の入域観光客数は877万人で、これまでの過去最高であった平成27年度の794万人を大きく上回った。

所得の割合を示せないのが現状だ。この辺は、長崎県にお聞きしたいところだ。

ご存知のように、県民所得を出すための項目に観光部門が明確に位置付けられていないからだ。観光収入はアンケート調査で出して、それと対比して県民総生産と比べるが、県民総生産に締めるといいう言い方はできない。復帰当初は基地から発生する収入が県民所得に占める割合が高かったが、今では逆転している。

Q：小学校、中学校での教育はどうしているか？

A：観光教育については、コンベンションビューローさんと沖縄観光教本という本を作り、毎年すべての4年生に配っている。これを踏まえて、出前講座等を行っている。

Q：長崎もクルーズ船の寄港が多く観光に与える効果が高いと言われているが、一部はあまり経済効果が無いといわれている。沖縄のデータでも1/4しかない中、クルーズ船を呼び込もうとされている。長崎ではクルーズ船が来てもうるさいだけだという人もいます。今後のクルーズ船への取り組みは？

A：クルーズは1日あたりで見た場合、非常に効率が良いと言える。4日で75千円と1日で25千円という状況なので、クルーズはあながち経済効果が低いとはいえない。あとはイメージの問題だ。国際リゾート地というからには、クルーズ船が寄港している状況というのは、非常にイメージが良い。もう少し停泊時間を長くしてもらえば、さらに経済効果は増すと考えている。



Q：調査した金額には、クルーズ船自体の食料や燃料は含まれているのか？

A：我々の調査には含んでいない。

Q：長崎もMICEのプランニングをやっているが、沖縄では大型コンベンションの計画がある。すでに沖縄コンベンションセンターがあり、それをMICE機能として活用されていると思うが、ずばり効果はあるか？

A：決して効果は低くないと思っている。指定管理者はコンベンションビューローだが、経営に行き詰ったということは無い。採算も順調に推移している。

2. 沖縄観光教育と沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）の取り組みについて

一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー

事務局次長 市原 秀彦 氏

受入推進課長 米谷 保彦 氏

観光学習について

「めんそ〜れ〜沖縄 観光学習教材」

■目的

子どもたちに観光の視点から沖縄の歴史・文化、自然を学んでもらうと共に、おもてなしの心を自発的に育ててもらい、沖縄観光の持続的な発展に寄与することを目的としている。

■背景

平成 15 年度から平成 17 年度にかけて実施した沖縄県観光産業人材育成事業において「観光産業従事者のステイタス向上には、学校教育の段階から沖縄の歴史・文化、自然等を活かした観光産業に対する理解を深める必要がある」との方向性が示され、本教材を作成した。

構成・内容・表現については、教育行政や小学校教諭、観光業界など産学官のメンバーで編集会議を重ね、子供たちの目線で作成した。

■配布先

平成 18 年度より県内小学 4 年生全児童に無料で配布。平成 28 年度まで 234,500 冊を配布。

（4 年生から総合学習が始まるので、そこで活用してもらう為、4 年生に配布）

■内容

- ・沖縄県の観光産業の様子
- ・観光資源
- ・私たちにできること

国の「明日の日本を支える観光ビジョン」施策集に先進事例として「めんそ〜れ〜沖縄 観光学習教材」が紹介されている。また同学習教材は「第 2 回ジャパン・ツーリズム・アワード」を受賞。

■「観光教育」の実績（平成 27 年度）

- ・出前授業（小学校：12 校、中学校・高校・専門学校：15 校）
OCVB（沖縄コンベンションビューロー）の講師が、県内各地の小・中・高校等に出向き、無料で出前講座を実施している。（「地域学習」「接遇マナー」）
- ・ジョブシャドウイングインターンシップ：30 校
- ・観光関連企業での語学、人材育成研修（支援事業）
- ・夏休み子供自由研究 沖縄コンベンションセンター

観光の人材不足は大きな課題だ。待遇の問題、休みがとりづらい、きつい等のイメージがある。待遇の問題は、業界の方にごんばっていただくとして、やはり観光業に夢を持ってもらうため、若いうちから学習して職業観を持ってもらうのも 1 つの改善策だ。

OCVBの事業概要と役割について

- ・OCVB は、民間から 14 名の出向者がいる（内訳は県 4 名、JTB 2 名、全日空、日本旅行、



学習教材本の作成・配布

◆観光教育



小学校への出前講座

沖縄ツーリスト、NTT、西鉄、近畿日本ツーリスト、沖縄銀行、日本航空)。

- OCVBは今まで観光中心だったが、2020年9月に大型MICE施設(4万㎡、日本で4~5番目の大型施設)が完成予定だ。これからは観光振興とコンベンションをやっていく予定。
- 2016年の当期純利益(税引前)は1億5,000万円。(前年度は3,000万円弱)。県からの受託事業は41億円。29の事業があり、25の事業は県からの受託事業、2事業は収益事業、残り2事業は指定管理者の事業となっている。
- 沖縄は台湾まで50分、上海まで1時間半、ソウル・香港・北京が2時間とアジアにとっても近い。
沖縄には人口20億人の巨大マーケットがあるということで、内閣府に「東アジアの玄関口は沖縄です。ぜひ国の象徴に」とアピールしている。
- 飛行機の長崎・那覇便は、2016年度約3万人(前年度比2600人増)、提供座席は2016年度約6万席(前年度比13千席増)で利用率は50%に留まっている。稼働率を上げる必要がある。

- OCVBは県と一緒にやっているが、沖縄には34団体の観光協会があり、こことも連携しながら進めている。八重山と北谷で2つのDMOができたが、今後も2~3つ増える予定。
- 一括交付金(41億円)があと5年でなくなる。この対策として、OCVBみずから補助事業の申請に取り組んでいる。ナイトエンターテイメントを県と一緒に取り組む予定であり、ツーリズムエキスポにも手を挙げた。沖縄には内閣府総合事務所があり、そこにOCVBとして様々な提言を出している。収益事業が18%であり、これをいかに増せるか取り組んでいる。

- 長崎と沖縄の観光連携を考えると、共通でいえるのはインバウンドだ。アジア・欧米から長崎、沖縄に来ていただいたらどうか。テーマはエキゾチックだと思う。長崎は異国情緒があり沖縄は琉球王国があり、何か似ている。キーワードはトランジットだ。

閑散期が沖縄は11月から4月、長崎は4月から6月と2月、この辺は何か連携ができるのではないか。

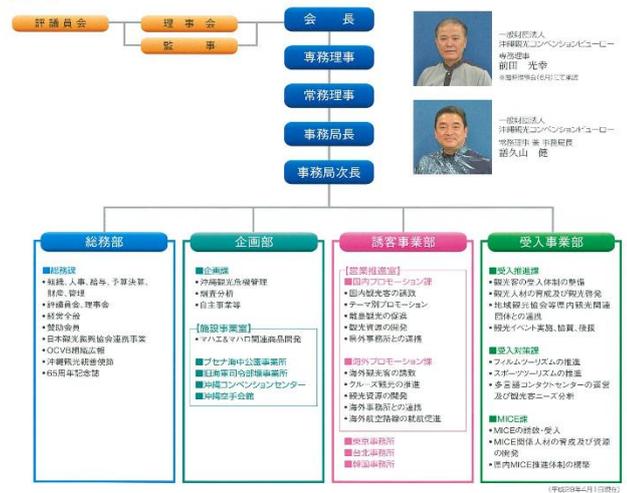
- OCVBの訪日プロモーションは年20億の予算でやっているが、中国、韓国、香港、台湾が主要なエリアで、今後はタイ、シンガポール等もやっていく予定。各々の国・エリアに目標値をたてている。

クルーズは昨年387回で福岡を抜き、今年は548回寄港する予定。

- 沖縄で買いたいものの1位はお菓子、次は服装品(かりゆしウェア)、あとは不動産。東京よりも投資は盛んかもしれない。マンションなどはすぐに売れてしまう。10年前に買ったマンションが当時より高い値段で売れるのが沖縄だ。

- OCVBの役割は、2020年にかけて国内・海外に観光振興を行うことだ。成長著しいアジアの窓口として旅行者に来ていただいて日本各地を結びたい、受入環境整備に力をいれたい、2020年に第2滑走路ができるので国内外に発信して誘客をしたい、観光立県沖縄は観光立国日本の実現のために貢献したい。これまでは観光リゾート地沖縄だったが、2020年以降は国際リゾート地沖縄として国際水準を目指す。

組織図



OCVBの基本理念



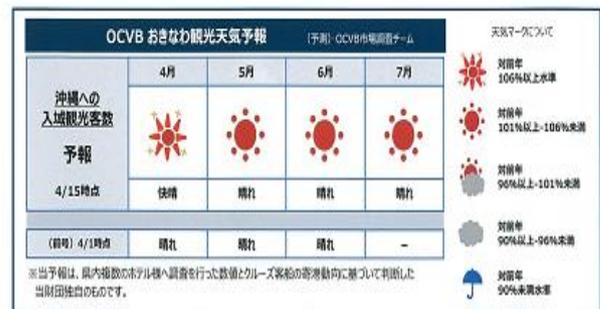
機関誌「OCVB News」の掲載内容

- ・2030年度までの観光客数予測
- ・観光天気予報（快晴、晴れ、曇り、雨の表記で対前年比較を予測）
 - ・月毎の観光客数予報
 - ・エリア別観光客数予報
- ・事業概況
- ・インフォメーション
- ・地域観光だより

※「OCVB News」に掲載の各種資料

（一部抜粋）は後述「6. 参考資料」を参照。

直近の見通し



質疑応答

司会：長崎と沖縄のコラボは個人的に考えていることがある。沖縄の方には怒られるかもしれないが、知人は「熱帯魚しかいない、青魚を食べたい」という。是非、長崎の魚を沖縄の観光客に食べてもらいたいと思う。このコラボの話は、事務局とも相談しながら進めていきたいと思う。

Q：観光学習教材についてお聞きしたい。平成18年から続けられているが、どれくらいの効果があったのか？この教材をつくるにあたり大学教授も参加しているが、その関わり方を知りたい。

A：後追い調査をやっていないので詳しいことはわからない。待遇等の課題があり、若者が観光業に従事するのは高くない。学習本を全小学生に配布しているが、全小学校で使われている訳ではない。教育現場では授業数の確保ができないとか、教員が教えられないとかあり、途中から出前講座を始めた。小学校の先生の熱心さにも左右され、校長先生に理解があり熱心だとやりやすい。

大学の先生の関わり方だが、観光教育研究会で当初から関わっている方に玉川大学の寺本先生がいる。地理教育や観光教育をやっている方だ。活動を始めたころは、大学に観光学科は少なかったが、今ではどの大学にもある。組み直して、今の観光学科の先生にも入っていただくような話しもある。

Q：DMOの考え方について教えていただきたい。DMOの中で一番重要なのが機能強化だと思っているが、OCVBさんはマーケティング、マネジメント、県に対する政策提言等しっかりされていて、まさにDMOそのものだと思っている。その中でさらにDMOを目指すうえで、今度どのような機能を強化されていくのか。

A：機能的にはOCVBはDMOだと言われていたのだが、今まで申請していなかった。登録になれば、自然と国から情報が入る。また、DMOには優先して案件に取り組んでもらえる。OCVBもDMO登録を行う。

3. 沖縄県におけるレンタカー業界の現状と課題

一般社団法人 沖縄県レンタカー協会
会長 白石 武博 氏

沖縄県のレンタカー利用実績（平成28年度）

- レンタカー利用者：525万人（観光客数の60%）
- 貸渡し台数：175万台
- （うち外国人貸渡し台数：20万台）
- （外国人は台湾人、韓国人、香港人で95%を占める。中国人はジュネーブ条約が締結されていないので



利用できない)

1日平均：4,800台

外国人の事故（平成28年度）

外国人の事故件数：5,416件→日本人の約4倍

原因等：運転席の左右の違い、車幅の違いによる運転感覚の違い、標識の違いなど

対応：「外国人が運転している」の表記ステッカーを貼付

レンタカー利用増に伴う、送迎バス乗り場の現状と課題

■現状

那覇空港では、ピーク時間1時間で1,500台の予約があり、4,500人が利用することになるが、レンタカー送迎バスのスペースが9台分しかないため、輸送最大人数が3,300名しか運べず、待たせることが課題となっている。4,500人全員を運ぶには、24台分のスペースが必要。

■予測（2020年）

那覇空港第2滑走路が供用開始によりレンタカー利用者さらに増えて540万人となり、1時間あたり2,100台の予約、6,300人が利用することになる。レンタカー送迎バスのスペースが33台分必要となり、このスペースの拡張が不可欠。

外国人観光客の白タク行為の現状

中国人は自身でレンタカーは利用できないため、中国語を話せる沖縄県民や日本人、台湾人などが、自家用車やレンタカーで中国人を観光地に案内しているなど白タク行為が行われている。

旅行者と運転手のマッチングサイト

レンタカー旅行者とドライバーをwebサイト上でマッチングするサービスで、webサイト上から、旅行者が登録している地元のドライバーを自由に選んで運転を依頼できる。

レンタカーと運転者をそれぞれ手配すれば、タクシー等に比べ安価で日本で運転可能な国際免許を持っていなくても、運転者を手配すればレンタカーでの旅行が可能。

質疑応答

Q：もし外国人の方が事故を起こされた場合、事故処理は日本人と比べて手続きにはどのような違いがあるのか？

A：アジアの方は自己主張が強いので車載カメラで現場を記録しておくことが大事、また通訳も必要。一番の問題は当事者が帰国してしまうことだ。人身事故に見せないで、物損で警察が処理した後、人身になってしまったというケースが問題となる。保険適用のためには、まず本人に確認することが必要だが、それができず、沖縄の方が保険処理を受けられず、泣き寝入りした実例がある。このあたりの法整備が必要だ。今、日本で2400万人の来日外国人がいる中で1割にあたる250万人が沖縄に来ているが、今後700万人を迎えようとしている中、こんな状態ではとても安全・快適な日本とは言えない、対策が必要だ。

司会：私が就職した頃の沖縄は、観光タクシーとバスでホテルまでお客さまをお送りすることが多かったが、あっという間にレンタカーが主流になった。長崎は路面電車が充実しているので、市内にレンタカーは必要ないと思うが、九州全体の広域観光を考えたときにレンタカー需要は増えてくると思う。近い将来起こり得る課題をお話いただいた。

4. 沖縄県物産公社の概要と取り組みについて

(株)沖縄県物産公社

代表取締役社長 島袋 芳敬 氏
 取締役 与那嶺 勉 氏
 イベント推進課長 大宿 永尚 氏
 企画物流課長 比嘉 徹 氏



(株)沖縄県物産公社について

企業理念：「県内生産者・メーカー自立及び県経済の自立・活性化に貢献する」

設立：平成5年2月10日

目的：沖縄県産品の安定的供給体制の確立と販路拡大を目的に沖縄県、経済・関係団体、自治体、主要民間企業が参加してオール沖縄で構成される第3セクターの事業体である。

資本金：4億4,500万円（株主数56名）

内訳：県（24.7%）、市町村10市（7.2%）、経済・関係団体8団体（5.8%）、金融機関5行（22.5%）、県内メーカー（39.8%）

役割：情報収集・分析、商品開発、原料供給、販路開拓

販路開拓：物産展販売、卸売、小売（わしたショップの運営）、通信販売

業績：売上60億円程度で推移。

事業所：営業所3、直営店（わしたショップ）7、特約店（フランチャイズ契約）6

部門別取扱高：国内卸部門（34%）、店舗部門（34%）、物産展部門（22%）

海外部門国別・分類別販売実績

海外別では、もっと多いのが香港で43.9%。台湾、シンガポールと続く。分類別では、酒類（36%）とくにビールが売れている。

わしたショップについて（平成28年度実績）

購入客数：134万人

来店客数：442万人

売上構成：菓子26%、加工食品20%

■わしたショップ国際通り店について

客数：11万人のうち、30代女性が18.7%を占める。

顧客動向：女性が65.3%を占める。

店舗の販路開拓について

今後直営店（わしたショップ）では、アンテナショップ機能の強化、運営体制の強化を図る。

また、直営店でカバーできない主要都市については、わしたショップの特約店として展開する。

商品開発及び地元企業との連携について

・わしたショップでの販売データ及び顧客のニーズを製造メーカーにフィードバックすることで既存商品の改良・新商品の開発に結び付けている。



- ・製造メーカー単独で商品開発ができない場合は、当社オリジナル商品（PB）として積極的に開発を行っている。
- ・食に対する安心・安全・健康志向が一段と高まる中、担当者が「HACCP専門講師」の資格を取得するなど業務スキルの向上を図り、地元製造メーカーへの指導を通して沖縄県産品の品質向上に努めている。
- ・各地域の商品発掘事業に参画するなど県産品の拡大販売に活用できる情報収集・発掘・育成に努めている。

沖縄県との連携等について

- ・沖縄県と連携し全国の百貨店 45 店舗・量販店 10 エリア 519 店舗で「沖縄物産店」を開催しており、伝統芸能をはじめ歴史・文化の情報を発信し、物販のみならず沖縄観光への誘客等を図り、県経済の発展に繋げることを目的としている。
- ・沖縄県海外事務所等との連携による海外市場での販売促進事業も展開している。
- ・沖縄県が推奨する「優良県産品」の推奨制度を委託事業として、沖縄の産業まつりや県外わしたショップで優良県産品及び推奨制度のPRを行い、沖縄県産品の販売促進に努めている。

質疑応答

Q：わした会員のメリットは？

A：年に4回、DMを送っており、そのDMにポイントを付加している。その他、沖縄の情報を発信している。

Q：補助金を利用しているのか？

A：銀座のわした店舗をつくるときに総額 2.7 億円かかった。そのうち 8,500 万円を補助金に充てたが、補助金はこの1回のみである。別に県から物産展の事業受託費としてもらっている。銀座店の家賃は年間1億円以上かかるが、利益の中から払っている。

Q：物産の海外展開について、事業所が当公社を經由して展開するやり方や、単独で展開するやり方があると思うが、およそどれくらいの比率なのか？

A：オリオンビールを例にあげると、Aエリアは公社を通じて展開する、Bエリアは単独で展開するなどといったように、エリア別ですみわけをしている。オリオンビールについては、当公社では、香港、シンガポールを独占的に展開している。

Q：当公社の人員構成、株主からの出向者は？

A：以前はあったが、現在は県からの出向者はない。従業員数は臨時を含め140名程度で、ほとんどが店舗従業員。

Q：わしたショップの商品は全て買い取るのか？

A：9割9分は仕入れ（買取り）である。全国のアンテナショップの売上で、わしたショップは北海道のアンテナショップに次いで2位である。年々賃料が上がっていく傾向にあり、固定費をどうするかは課題である。

Q：「沖縄大交易会」などの商談会では、国内外でバイヤーは何社ぐらいくるのか？

A：「沖縄大交易会」は県が主催しており、産業振興公社が事業を受託している。東南アジアを中心とした商談会であり、200社ほど参加している。

Q：わしたショップ銀座店の売れ筋商品は？

A：菓子類が売れている。一番売れているのは「タルト類」や「ちんすこう」など。

Q：わしたショップから材料を仕入れている沖縄料理店はあるのか？

A：基本は直接沖縄から仕入れているが、わしたショップ銀座店では、周辺の沖縄料理店との取引がある。「生もの」や「そば」などを購入していただいている。

Q：取扱商品の選択は、バイヤー任せなのか、入札しているのか？

A：当会社にバイイングする部署があり、常時メーカー側と商談をしているが、本当に売れるものか、売れないものかを我々が審査している。

Q：商品開発について教えて欲しい？

A：バイヤーからこういった商品がないかと依頼があったとき、メーカー側にフィードバックして、一緒に作らないかと共同で開発している。

Q：ネット販売で国外にも展開していると思うが、苦労している点や戦略について教えて欲しい？

A：通信販売をおこなっているが国内のみである。8,000万円程度で規模は小さい。メーカーは直接、通信販売で値下げして販売できるが、我々は定価で販売せざるを得ないので、通信販売は強化しきれない。

Q：工業製品は需要があるのか？

A：工業連合会が取り組んでおり、工業製品の販売は、我々は行っていないが、優良県産品推奨制度の審査については関わっている。

Q：オリオンビールの香港、シンガポールへの展開について、直接、現地の卸売、小売業者と取引しているのか？

A：現地の問屋と取引をしている。県の販路拡大の事業を利用し、メーカーと一緒に展開している。

5. ホテルおよび那覇空港観光案内所の視察

沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ

1995年オープン、2008年改装 収容能力：269室、617名

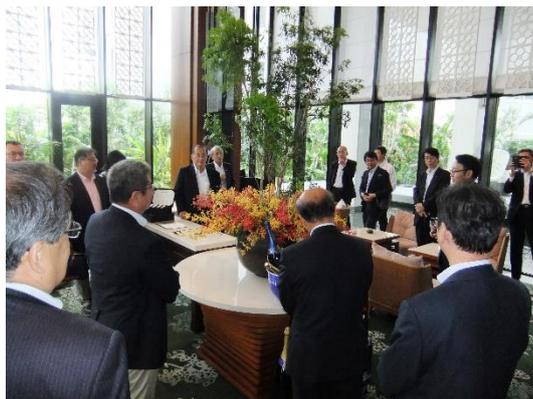
- 宿泊外国人比率：10%程度
- 平均滞在宿泊数：日本人、外国人ともに2泊
- 平均稼働率：平日85%、休前日90%、
- 国別の宿泊の多い国ベスト3：韓国、香港、中国
- 宿泊客の朝食の喫食率：95%
- 宿泊のリアルエージェントの比率：80%
- 宴会場の利用：週末には披露宴が多い。
- 行政との連動したキャンペーン：OCVBと連携したキャンペーンに参画している。親子3世代旅行などの取り組みなど
- 宿泊客の夕食の喫食率：16%、(国際通りで飲食する客が多い)
- ルームサービスの利用：少ない。



ハイアットリージェンシー那覇沖縄

2015年オープン 収容能力：294室

- 宿泊外国人比率：50%
- 平均滞在宿泊数は、日本人と外国人ともに1.8泊
- 平日と休前日との稼働率の差：10%程度、休前日が高い
- 国別の宿泊の多い国ベスト3：中国、韓国、香港
- 宿泊客の朝食の喫食率：65%
- 宿泊のリアルエージェントの比率：10%
- 宴会場の利用：宴会はインセンティブ客が多い。
- 行政との連動したキャンペーン：OCVBと連携して沖縄観光を誘致している。
- 宿泊客の夕食の喫食率：5%程度（国際通りで飲食する客が多い）
- ルームサービスの利用：ほとんどない（多くて2件程度）
- 宿泊料金：平均24,000円 スイート（平均）60,000円



那覇空港観光案内所

1994年開所

(株)JTB沖縄が沖縄県から運営を委託されている。

- 開所時間：9：00～21：00
- 対応言語：英語、中国語、韓国語、フランス語
- 年間委託費：50,877千円
- 基本業務：観光案内
 - ホテルへのアクセス
 - 空港館内の問合せ、電話対応
 - 各地への路線バスでのアクセス案内
 - イベント等の案内



6. 参考資料

① 沖縄県、長崎県、長崎市等の観光予算について～観光経済新聞社アンケートより～

平成29年6月16日 長崎経済同友会事務局

沖縄県、長崎県、長崎市等の観光予算について ～観光経済新聞社アンケートより～

長崎市	
2016年度観光予算：A	12億3,000万円
2016年度一般会計予算：B	2,169億70百万円
うち地方交付税+国庫支出金	968億円
一般会計に占める観光予算割合(A/B)	0.57%
2015年観光入り込み客数	669万人
2015年10月1日 国勢調査人口	429,508人

★長崎市の金額は、長崎市の担当者に確認したものです。

長崎県	
2016年度観光予算：A	7億5,130万円
2016年度一般会計予算：B	7,247億円
うち地方交付税+国庫支出金	3,317億円
一般会計に占める観光予算割合(A/B)	0.1%
2015年観光入り込み客数	3,328万人
2015年10月1日 国勢調査人口	1,377,187人

沖縄県	
2016年度観光予算：A	164億6,816万円
2016年度一般会計予算：B	7,541億56百万円
うち地方交付税+国庫支出金	4,393億円
一般会計に占める観光予算割合(A/B)	2.2%
2015年観光入り込み客数	794万人
2015年10月1日 国勢調査人口	1,433,566人

熊本県	
2016年度観光予算：A	1億8,188万円
2016年度一般会計予算：B	6,877億74百万円
うち地方交付税+国庫支出金	2,999億円
一般会計に占める観光予算割合(A/B)	0.03%
2015年観光入り込み客数	5,972万人
2015年10月1日 国勢調査人口	1,786,170人

佐賀県	
2016年度観光予算：A	7億7,351万円
2016年度一般会計予算：B	4,311億777百万円
うち地方交付税+国庫支出金	1,956億円
一般会計に占める観光予算割合(A/B)	0.2%
2015年観光入り込み客数	2,022万人
2015年10月1日 国勢調査人口	832,832人

福岡県	
2016年度観光予算：A	15億5,912万円
2016年度一般会計予算：B	1兆8,026億円
うち地方交付税+国庫支出金	4,748億円
一般会計に占める観光予算割合(A/B)	0.1%
2015年観光入り込み客数	1,614万人
2015年10月1日 国勢調査人口	5,101,566人

鹿児島県	
2016年度観光予算：A	41億1,971万円
2016年度一般会計予算：B	8,224億57百万円
うち地方交付税+国庫支出金	4,231億円
一般会計に占める観光予算割合(A/B)	0.5%
2015年観光入り込み客数	797万人
2015年10月1日 国勢調査人口	1,648,177人

宮崎県	
2016年度観光予算：A	4億3,102万円
2016年度一般会計予算：B	5,820億72百万円
うち地方交付税+国庫支出金	2,677億円
一般会計に占める観光予算割合(A/B)	0.1%
2015年観光入り込み客数	1,580万人
2015年10月1日 国勢調査人口	1,104,069人

大分県	
2016年度観光予算：A	5億5,243万円
2016年度一般会計予算：B	6,092億16百万円
うち地方交付税+国庫支出金	2,628億円
一般会計に占める観光予算割合(A/B)	0.1%
2015年観光入り込み客数	2,287万人
2015年10月1日 国勢調査人口	1,163,338人

石川県	
2016年度観光予算：A	25億3,355万円
2016年度一般会計予算：B	5,908億70百万円
うち地方交付税+国庫支出金	1,838億円
一般会計に占める観光予算割合(A/B)	0.4%
2015年観光入り込み客数	2,502万人
2015年10月1日 国勢調査人口	1,154,008人

②那覇市内のホテル一覧

那覇市内のホテル一覧

平成29年6月19日
長崎経済同友会事務局

	地区名	施設名	開業日	客室数
1	那覇	JR九州ホテル ブラッサム那覇	2017年6月24日	218
2	那覇	ホテルグレイスリー那覇	2016年4月7日	190
3	那覇	アルモントホテル那覇	2016年1月15日	159
4	那覇	ハイアットリージェンシー那覇沖縄	2015年7月	294
5	那覇	ホテルリゾネックス那覇	2014年	84
6	那覇	レッドプラネット那覇	2013年	117
7	那覇	ダブルツリー by ヒルトン那覇	2012年	225
8	那覇	リーガロイヤルグラン	2012年	157
9	那覇	メルキュールホテル那覇	2012年	260
10	那覇	西鉄リゾートイン那覇	2011年	252
11	那覇	ダイワおもろまち	2011年	243
12	那覇	ホテルリブマックス那覇	2011年	81
13	那覇	ダイワロイネット県庁前	2010年	190
14	那覇	ホテルユクエスタ旭橋	2010年	72
15	那覇	ダイワ国際通り	2010年	261
16	那覇	ロワジールスパタワー	2009年	89
17	那覇	那覇東急REIホテル	2009年	215
18	那覇	ホテルココアナハ	2008年	222
19	那覇	コンフォート那覇県庁	2008年	132
20	那覇	沖縄ナハナ・ホテル	2007年	200
21	那覇	アパホテル那覇	2007年	361
22	那覇	スマイルホテル沖縄那覇	2007年	128
23	那覇	ホテル法華クラブ那覇	2006年	210
24	那覇	ホテルJALシティ那覇	2006年	304
25	那覇	ホテルサン・クイーン	2006年	60
26	那覇	HパームロイヤルNAHA	2005年	162
27	那覇	ソルヴィータホテル那覇	2005年	200
28	那覇	リブレガーデンホテル	2005年	113
29	那覇	ホテルグランビュウ沖縄	2004年	126
30	那覇	リッチモンドホテル那覇	2004年	239
31	那覇	HOTEL AZAT	2003年	172
32	那覇	那覇ビーチサイドホテル	2002年	162
33	那覇	ホテルサン・コーラル	2001年	41
34	那覇	ザ ナハテラス	1999年8月1日	145
35	那覇	ルートイン那覇旭橋駅	1997年	119
36	那覇	かりゆしアーバン	1995年	269
37	那覇	ロワジールホテル那覇	1993年	533
38	那覇	スマイルホテル那覇シティ	1988年	250
39	那覇	琉球サンロイヤルホテル	1986年	135
40	那覇	ホテルオーシャン	1986年	82
41	那覇	ホテルサン沖縄	1976年	200
42	那覇	ネストホテル那覇	1975年	193

那覇市内のホテル一覧

平成29年6月19日
長崎経済同友会事務局

	地区名	施設名	開業日	客室数
43	那覇	ホテルチュラ琉球	1975年	65
44	那覇	ホテルロイヤルオリオン	1975年6月3日	209
45	那覇	ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー	1975年4月	352
46	那覇	ホテルタイラ	1975年3月1日	95
47	那覇	那覇セントラルホテル	1974年5月	190
48	那覇	沖縄都ホテル	1974年	307
49	那覇	南西観光ホテル	1974年	155
50	那覇	サンプラザホテル	1974年	95
51	那覇	パシフィックホテル沖縄	1973年2月1日	389
52	那覇	ヒルトン那覇首里城	1973年	333
53	那覇	那覇グランドホテル	1954年	125
54	那覇	ホテルサンパレス球陽館	1948年	75
55	那覇	沖縄ホテル	1941年	78
56	那覇	リブマックス那覇泊港		56
57	那覇	ルートイン那覇泊港		208
58	那覇	グランティア那覇		90
59	那覇	アートステイ那覇		80
60	那覇	沖縄国際ユースホステル		40

※開業日および客室数は、ネット検索「たびらい沖縄」等より転記。

③ 「OCVB News」の各種資料（一部抜粋）

【 OCVB予測 】 2030年度までの沖縄入域観光客数 (予測) OCVB市場調査チーム 2017/04/25

＜全体概要＞

OCVBは、2016年度の沖縄への入域観光客数を踏まえ、2030年度までの推移を予測しました。

2017年度におけるOCVBの目標値は945万人、その内、国内観光客の目標値は681万人、外国人観光客の目標値は、263万人と設定しました。OCVBとしては、国内客を含め、その達成にむけて誘客ならびに受入体制の構築における様々な施策を講じてまいります。

2030年度までの推移は、那覇空港第二滑走路の共用開始による大幅な入域観光客数の増加が見込める2020年度の伸び率を、直近5年の平均成長率を上回る11.5%と想定しており、その他の年度については、直近この3年間で各種施策の積上げを図ることで、過去20年の年平均成長率4.4%前後の水準へ導きたいと考えています。

国内・外国の詳細は下記をご覧ください。



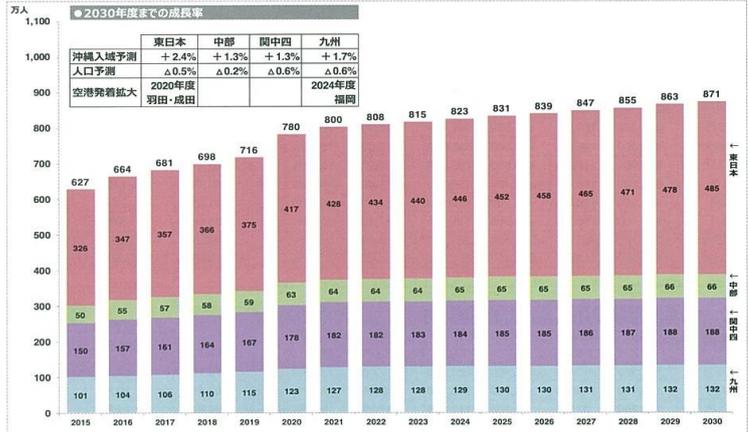
前年比 (%)	実績										目標 → 予測													
	国内	外国	国内	外国	国内	外国	国内	外国	国内	外国	国内	外国												
95%	96%	96%	97%	95%	95%	94%	90%	86%	79%	76%	72%	71%	70%	68%	67%	65%	63%	61%	60%	58%	56%	54%	52%	50%
5%	4%	4%	3%	5%	5%	6%	10%	14%	21%	24%	28%	29%	30%	32%	33%	35%	37%	39%	40%	42%	44%	46%	48%	50%

＜国内客の概要（本土経由の外国客を含む）＞

沖縄入域の国内客は、過去大きなイベントリスクに直面する年もありましたが、空路における新規路線の就航や増便、機材の大型化、また離島への直行便やLCCの就航などに支えられながら、沖縄へのピーターも増加し、人気は本格化してまいりました。

未来を向くと、日本の人口減少や国内他方面との競争と取り巻く環境が大きく変化しておりますが、2020年3月那覇空港第二滑走路供用開始で処理能力は拡大へ、また本土経由外国人客、いわゆるトランジット需要の拡大も明るい話題であります。

国内客は、過去における入域客数実績・航空輸送実績・那覇空港の発着回数と降客数、ならびに既に予定されている国内他空港の発着回数拡大や未来の人口予測(厚労省)を総合的に勘案して推計した結果、2030年度まで国内客の総数は、年率2.0%での成長と予測します。



＜外国客の概要＞

沖縄入域の外国客空路利用者は、国内同様過去大きなイベントリスクに直面する年もありましたが、新規路線の就航や増便、機材の大型化、LCCの就航などに支えられ、近年めまぐるしい成長を続けております。また未来では、こちらも2020年第二滑走路での処理能力の拡大とともに、既に見込まれている外国人の人口増加に伴い、世界の旅行需要やアジアの成長、日本政府を含めた訪日旅行需要の更なる取り込み、そしてこれらに沖縄の認知度向上が相まって、さらなる成長が見込めます。

海路では、現在、那覇港長期構想検討委員会で、概ね10年以内に第2・第3バースの整備、また概ね20年以内に第4バースの整備を目標として議論・検討がされております。その中における入港隻数の推計をみても成長が期待されます。

以上のように、重点市場各国について過去の訪日客数と沖縄入域客数、また未来の人口(UN)とGDP予測(PwC Japan)を総合的に勘案して推計を行いました。

総じて、外国客は2030年度まで、年率10.6%の成長と予測します。



4. 入域数/エリア別の対前年増減数

総計		国内		外国																
エリア		上期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期計	年度計										
国内	東日本	小計	+90,400	+14,700	+19,000	+21,900	+22,800	+16,900	+30,400	+125,700	+216,100									
	中部	小計	+24,400	+3,300	+5,400	+4,800	+4,300	+2,600	+5,700	+26,100	+50,500									
	関西・中四国	小計	+37,800	+3,700	+5,500	+7,800	+7,500	+2,400	+9,500	+36,400	+74,200									
	九州	小計	+16,600	△200	+3,900	+6,000	+4,500	△700	+3,200	+16,700	+33,300									
	計		+169,200	+21,500	+33,800	+40,500	+39,100	+21,200	+48,800	+204,900	+374,100									
外国	台湾	空路	+45,700	+7,000	+3,300	+6,300	+11,100	+10,200	+16,100	+54,000	+99,700									
		海路	+33,000	+5,900	△1,100	+1,800	+5,600	+1,600	+200	+14,000	+47,000									
	韓国	空路	+74,700	+10,200	+6,000	+8,500	+6,400	+5,800	+8,800	+45,700	+99,700									
		海路	△400	+200	+0	+0	△100	+0	△200	△100	△500									
	中国本土	空路	+18,900	△200	△300	△700	+3,800	△3,100	△200	△700	+18,200									
		海路	+74,300	+12,100	△5,500	△4,200	△2,900	△11,200	△200	△11,900	+62,400									
	香港	空路	+6,200	+800	+200	+1,100	+3,200	△1,300	+100	+4,100	+10,300									
		海路	+11,900	+0	+1,200	△2,300	+300	△1,600	△3,600	△6,000	+5,900									
	その他	空路	+9,600	+2,500	+0	+1,400	+900	+900	+4,100	+9,800	+19,400									
		海路	+83,300	+11,100	△7,000	△3,000	+4,000	△7,100	△4,600	△6,600	+76,700									
	計	空路計	+202,100	+29,300	△12,400	△7,700	+6,900	△18,300	△8,400	△10,600	+191,500									
		海路計	+356,500	+49,600	△3,200	+8,900	+32,300	△5,800	+20,500	+102,300	+458,800									
	総計		+525,700	+71,100	+30,600	+49,400	+71,400	+15,400	+69,300	+307,200	+832,900									

5. 入域数/構成比 (年度累計/同期比)

総計	構成比	
	比率	前年差
東日本	39.6%	△1.4%
中部	6.2%	△0.0%
関西・中四国	17.9%	△0.9%
九州	11.9%	△0.8%
台湾	7.4%	+1.1%
韓国	5.2%	+1.0%
中国本土	5.0%	+0.5%
香港	2.5%	△0.1%
海外その他	4.2%	+0.8%

国内	構成比	
	比率	前年差
東日本	52.3%	+0.3%
中部	8.2%	+0.3%
関西・中四国	23.7%	△0.2%
九州	15.7%	△0.4%

外国	構成比	
	比率	前年差
台湾	30.6%	+0.4%
韓国	21.2%	+1.3%
中国本土	20.4%	△0.8%
香港	10.2%	△1.8%
海外その他	17.4%	+1.0%

6. 入域数/国内航路別・外国国籍別ランキング

国内 外国	国内/航路別 外国/国籍別	上期計 (確定)				下期計 (10-3月)				年度計			
		入域数	入域数シェア	対前年増減数	対前年増減数	入域数	入域数シェア	対前年増減数	対前年増減数	入域数	入域数シェア	対前年増減数	対前年増減数
		(人)	(%)	(人)	ランキング	(人)	(%)	(人)	ランキング	(人)	(%)	(人)	ランキング
国内	札幌	19,200	0.4%	+1,700	18	22,200	0.5%	+100	23	41,400	0.5%	+1,800	21
	仙台	29,700	0.6%	+1,100	23	33,300	0.8%	+400	21	63,000	0.7%	+1,500	22
	新潟	3,700	0.1%	△200	37	12,000	0.3%	+700	18	15,700	0.2%	+500	30
	小松	15,500	0.3%	+200	31	16,600	0.4%	+100	23	32,100	0.4%	+300	31
	東京	1,656,300	35.9%	+89,200	2	1,612,100	38.8%	+122,200	1	3,268,400	37.3%	+211,400	1
	茨城	11,000	0.2%	+11,000	11	2,400	0.1%	+2,400	8	13,400	0.2%	+13,400	12
	静岡	13,800	0.3%	△800	38	16,000	0.4%	+500	20	29,800	0.3%	△300	37
	名古屋	273,100	5.9%	+24,400	7	274,600	6.6%	+26,100	4	547,700	6.2%	+50,500	7
	伊丹	269,900	5.8%	+44,400	6	236,100	5.7%	+22,800	5	506,000	5.8%	+67,200	6
	関西	362,200	7.8%	△29,700	41	310,300	7.5%	△1,600	37	672,500	7.7%	△31,300	41
	神戸	97,800	2.1%	+7,000	12	96,900	2.3%	+9,600	7	194,700	2.2%	+16,600	9
	岡山	20,100	0.4%	+0	33	17,700	0.4%	△900	36	37,800	0.4%	△900	38
	広島	28,900	0.6%	+2,500	14	31,000	0.7%	+1,600	15	59,900	0.7%	+4,100	16
	岩国	12,600	0.3%	+12,600	10	3,000	0.1%	+2,400	8	15,600	0.2%	+15,000	11
	高松	29,300	0.6%	+200	31	23,600	0.6%	+0	26	52,900	0.6%	+200	32
	松山	17,300	0.4%	+800	25	16,400	0.4%	+2,000	13	33,700	0.4%	+2,800	19
	福岡	400,500	8.7%	+18,100	8	420,800	10.1%	+15,200	6	821,300	9.4%	+33,300	8
	長崎	12,600	0.3%	+700	27	13,400	0.3%	+1,400	16	26,000	0.3%	+2,100	20
	熊本	13,200	0.3%	△5,300	39	16,300	0.4%	△1,800	38	29,500	0.3%	△7,100	39
	宮崎	17,800	0.4%	+300	30	17,700	0.4%	△300	31	35,500	0.4%	+0	34
	鹿児島	68,300	1.5%	+2,000	17	63,100	1.5%	+2,200	11	131,400	1.5%	+4,200	15
外国	台湾	393,300	8.5%	+78,700	3	258,800	6.2%	+68,000	2	652,100	7.4%	+146,700	2
	韓国	205,500	4.4%	+73,600	5	246,500	5.9%	+45,600	3	452,000	5.2%	+119,200	3
	中国本土	271,800	5.9%	+93,200	1	163,600	3.9%	△12,600	41	435,400	5.0%	+80,600	4
	香港	129,100	2.8%	+18,100	8	89,000	2.1%	△1,900	39	218,100	2.5%	+16,200	10
	アメリカ	11,100	0.2%	+4,100	13	11,800	0.3%	+2,100	12	22,900	0.3%	+6,200	13
	カナダ	4,700	0.1%	+900	24	4,800	0.1%	△300	31	9,500	0.1%	+600	29
	イギリス	4,400	0.1%	+1,500	19	4,300	0.1%	△800	35	8,700	0.1%	+700	28
	フランス	1,300	0.0%	+400	29	1,700	0.0%	+700	18	3,000	0.0%	+1,100	24
	タイ	3,600	0.1%	+2,300	16	6,600	0.2%	+1,300	17	10,200	0.1%	+3,600	18
	シンガポール	3,800	0.1%	+1,300	21	5,500	0.1%	+2,400	8	9,300	0.1%	+3,700	17
	マレーシア	3,800	0.1%	+2,500	14	3,800	0.1%	+1,900	14	7,600	0.1%	+4,400	14
インドネシア	1,600	0.0%	+1,200	22	700	0.0%	+0	26	2,300	0.0%	+1,200	23	
オーストラリア	3,900	0.1%	+1,400	20	4,000	0.1%	△600	34	7,900	0.1%	+800	25	
外国その他	199,400	4.3%	+77,300	4	90,700	2.2%	△3,500	40	290,100	3.3%	+73,800	5	
総計	4,618,700	100.0%	+525,700	-	4,150,500	100.0%	+307,200	-	8,769,200	100.0%	+832,900	-	

※「海外その他」には、乗務員等が計上されている。

7. 入域数/八重山、宮古、久米島、座間味村、渡嘉敷村

参考数値

<数値引用> ●総数 : 沖縄県 観光政策課
●八重山 : 沖縄県 八重山事務所
●宮古 : 宮古島市 観光商工局 観光課
●久米島 : 久米島町観光協会
●座間味村 : 座間味村役場 産業振興課
●渡嘉敷村 : 渡嘉敷村 商工観光課

<数値のご注意> ※各数値は、左記の関係各所が定めた統計手法により、算出されているため、若干考え方に相違があります。また各諸島の数値と沖縄県総計とは一部重複している部分もあるため、参考数値としてご覧ください。
※数値公表のタイミングもそれぞれ異なります。空欄部分は、現在未発表となります。

沖縄離島の入域観光客数

●沖縄県入域観光客数 総計				
	2016	前年比	前年増減	2015
上期計	4,618,700	112.8%	+525,700	4,093,000
10月	767,900	110.2%	+71,100	696,800
11月	650,200	104.9%	+30,600	619,600
12月	663,000	108.1%	+49,400	613,600
1月	653,000	112.3%	+71,400	581,600
2月	637,900	102.5%	+15,400	622,500
3月	778,500	109.8%	+69,300	709,200
下期計	4,150,500	108.0%	+307,200	3,843,300
年度計	8,769,200	110.5%	+832,900	7,936,300

●八重山				
	2016	前年比	前年増減	2015
上期計	671,127	108.0%	+49,856	621,271
10月	115,949	107.7%	+8,303	107,646
11月	89,567	100.0%	△30	89,597
12月	83,433	113.0%	+9,566	73,867
1月	87,766	128.2%	+19,328	68,438
2月	96,147	96.4%	△3,561	99,708
3月			+0	
下期計	472,862	107.7%	+33,606	439,256
年度計	1,143,989	107.9%	+83,462	1,060,527

●宮古				
	2016	前年比	前年増減	2015
上期計	432,193	156.3%	+155,755	276,438
10月	62,956	123.4%	+11,943	51,013
11月	37,864	115.9%	+5,190	32,674
12月	38,272	119.8%	+6,334	31,938
1月	35,546	105.8%	+1,936	33,610
2月	43,677	104.4%	+1,857	41,820
3月			+0	
下期計	218,315	114.3%	+27,260	191,055
年度計	650,508	139.1%	+183,015	467,493

●久米島				
	2016	前年比	前年増減	2015
上期計	55,407	105.5%	+2,875	52,532
10月	10,404	114.1%	+1,282	9,122
11月	8,828	118.7%	+1,393	7,435
12月	8,774	116.4%	+1,235	7,539
1月	8,741	108.5%	+685	8,056
2月	9,282	99.8%	△21	9,303
3月	10,073	105.3%	+509	9,564
下期計	56,102	110.0%	+5,083	51,019
年度計	111,509	107.7%	+7,958	103,551

●座間味村				
	2016	前年比	前年増減	2015
上期計	70,053	103.1%	+2,077	67,976
10月	9,516	99.7%	△32	9,548
11月	6,636	112.1%	+715	5,921
12月	3,806	89.1%	△468	4,274
1月	3,413	93.6%	△235	3,648
2月	3,947	105.1%	+191	3,756
3月	6,590	108.2%	+500	6,090
下期計	33,908	102.0%	+671	33,237
年度計	103,961	102.7%	+2,748	101,213

●渡嘉敷村				
	2016	前年比	前年増減	2015
上期計	99,167	109.2%	+8,356	90,811
10月	11,178	94.2%	△690	11,868
11月	5,558	114.8%	+715	4,843
12月	3,465	82.5%	△733	4,198
1月	3,226	131.8%	+778	2,448
2月	3,584	159.1%	+1,331	2,253
3月	5,660	94.1%	△353	6,013
下期計	32,671	103.3%	+1,048	31,623
年度計	131,838	107.7%	+9,404	122,434

8. 【外国客】 沖縄の国際線定期路線概況

※数値は、OCV独自調査によるもの

外国

●国際線定期便の概況

平成29年4月19日現在

➢ 2017.5.10予定 = 16路線、週202便が運航を予定

エリア	路線	航空会社	2016/5/10時点 (サマータイヤ)		2017/5/10予定 (サマータイヤ)	
			路線数	便数/週	路線数	便数/週
台湾	台北-那覇	中華航空	CI	FSC	14	14
		復興航空	GE	FSC	7	7
		ピーチエアライン	MM	LCC	14	14
		エバー航空	BR	FSC	14	14
		タイガーエア台湾	IT	LCC	5	14
		ハネウエア	JW	LCC	—	4
	台中-那覇	華信航空	AE	FSC	1	2
	高雄-那覇	中華航空	CI	FSC	1	2
		タイガーエア台湾	IT	LCC	—	—
	台北-石垣	中華航空	CI	FSC	1	2
		台湾計			4	60
	韓国	ソウル-那覇	アジア航空	OZ	FSC	7
ジンエアー			LJ	LCC	7	7
済州航空			7C	LCC	7	7
タイウエイ航空			TW	LCC	1	7
ピーチエアライン			MM	LCC	7	7
イースター航空			ZE	LCC	7	7
釜山-那覇		大韓航空	KE	FSC	7	7
		アジア航空	OZ	FSC	1	3
大邱-那覇		ジンエアー	LJ	LCC	1	3
		タイウエイ航空	TW	LCC	—	5
	韓国計			2	55	
中国本土	上海-那覇	中国東方航空	MU	FSC	1	14
		上海吉祥航空	HO	FSC	1	7
	北京-那覇	中国国際航空	CA	FSC	1	4
	天津-那覇	中国国際航空	CA	FSC	1	2
	杭州-那覇	北京首都航空	JD	FSC	1	2
		中国東方航空	MU	FSC	1	2
	南京-那覇	上海吉祥航空	HO	FSC	—	5
	西安-那覇	中国東方航空	MU	FSC	—	2
	中国本土計			4	31	
香港	香港-那覇	香港航空	HK	FSC	14	14
		キャセイドラゴン航空	KA	FSC	1	7
	香港-石垣	ピーチエアライン	MM	LCC	3	3
		香港エクスプレス	UO	LCC	—	5
	香港計			1	24	
タイ	バンコク-那覇	ピーチエアライン	MM	LCC	—	7
		香港計			0	0
	タイ計			1	7	
	合計			11	170	
				16	202	

●運航便数/LCCシェア

(単位) 便数/週 ※左記の日付での比較

地域	年度	合計	FSC	LCC	LCCシェア
	2016	60	41	19	32%
	差異	+8	▲7	+15	+18%
韓国	2017	60	17	43	72%
	2016	55	17	38	69%
	差異	+5	+0	+5	+3%
中国本土	2017	38	38	0	0%
	2016	31	31	0	0%
	差異	+7	+7	+0	+0%
香港	2017	29	21	8	28%
	2016	24	21	3	13%
	差異	+5	+0	+5	+15%
タイ	2017	7	0	7	100%
	2016	0	0	0	—
	差異	+7	+0	+7	—
合計	2017	202	110	92	46%
	2016	170	110	60	35%
	差異	+32	+0	+32	+10%

●運航便数/2017年度月別推移

(単位) 便数/週 ※各月1日付での比較

地域	年度	2017年度月別推移											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
台湾	2017	64	68										
	2016	55	60	62	67	67	67	71	53	53	53	57	57
	差異	+9	+8	▲62	▲67	▲67	▲67	▲71	▲53	▲53	▲53	▲57	▲57
韓国	2017	61	60										
	2016	45	55	55	55	55	55	55	58	62	62	62	62
	差異	+16	+5	▲55	▲55	▲55	▲55	▲55	▲58	▲62	▲62	▲62	▲62
中国本土	2017	38	38										
	2016	31	31	31	35	35	33	33	34	33	32	36	36
	差異	+7	+7	▲31	▲35	▲35	▲33	▲33	▲34	▲33	▲32	▲36	▲36
香港	2017	29	29										
	2016	24	24	26	27	27	27	27	23	23	24	24	24
	差異	+5	+5	▲26	▲27	▲27	▲27	▲27	▲23	▲23	▲24	▲24	▲24
タイ	2017	7	7										
	2016	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7
	差異	+7	+7	+0	+0	+0	+0	+0	+0	+0	+0	▲7	▲7
合計	2017	199	202	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2016	155	170	174	184	184	182	186	165	167	171	186	186
	差異	+44	+32	▲174	▲184	▲184	▲182	▲186	▲165	▲167	▲171	▲186	▲186

9. 航空旅客輸送実績/需給バランス

[数値について] ※国内数値は、沖縄県観光政策課発表より引用、外国数値はOCVB独自調査によるもの
 ※いずれも沖縄向け(定期路線、下り便)の数値
 ※国内は、チャーター便など不定期路線およびLCCの輸送実績が含まれていません
 ※外国は、チャーター便など不定期路線および各国一部航空会社の輸送実績が含まれていません

参考数値

● 月ごとの供給/需要/利用率

		上期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期計	年度計
国内	提供座席 (供給)	4,605,452	751,965	713,228	735,573	727,584	643,042	742,448	4,313,840	8,919,292
	輸送実績 (需要)	3,404,079	587,175	559,365	546,247	521,421	503,444	633,534	3,351,186	6,755,265
	利用率	73.9	78.1	78.4	74.3	71.7	78.3	85.3	77.7	75.7
外国	提供座席 (供給)	870,327	154,743	131,855	143,243	142,952	115,964	147,363	836,120	1,706,447
	輸送実績 (需要)	700,610	120,096	93,558	107,255	122,139	95,202	121,824	660,074	1,360,684
	利用率	80.5	77.6	71.0	74.9	85.4	82.1	82.7	78.9	79.7
総計	提供座席 (供給)	5,475,779	906,708	845,083	878,816	870,536	759,006	889,811	5,149,960	10,625,739
	輸送実績 (需要)	4,104,689	707,271	652,923	653,502	643,560	598,646	755,358	4,011,260	8,115,949
	利用率	75.0	78.0	77.3	74.4	73.9	78.9	84.9	77.9	76.4



参考数値

● 路線別の供給/需要/利用率 (4~3月累計)

※利用率が70%以上の部分に色付けています。

発地	着地	輸送実績 (需要)				提供座席 (供給)				利用率			需給 前年比 差異	概況	
		2016年度 累計	2015年度 同期累計	同期比		2016年度 累計	2015年度 同期累計	同期比		2016年度 累計	2015年度 同期累計	増減			
				前年比	増減			前年比	増減						
国内	札幌 那覇	48,335	45,592	106.0%	+2,743	60,259	59,851	100.7%	+408	80%	76%	+4%	+5%	○	
	仙台 那覇	72,324	70,805	102.1%	+1,519	98,138	98,404	99.7%	-266	74%	72%	+2%	+2%	○	
	新潟 那覇	18,212	17,531	103.9%	+681	30,366	30,698	98.9%	-332	60%	57%	+3%	+5%	○	
	小松 那覇	36,966	36,742	100.6%	+224	52,800	52,375	100.8%	+425	70%	70%	+0%	△0%	△	
	茨城 那覇	15,446	0		+15,446	32,214	0		+32,214	48%	-			○	
	成田 那覇	56,146	58,724	95.6%	-2,578	98,004	98,275	99.7%	-271	57%	60%	-3%	△4%	△	
	羽田 那覇	2,976,925	2,827,572	105.3%	+149,353	3,796,965	3,705,670	102.5%	+91,295	78%	76%	+2%	+3%	○	
	羽田 宮古	110,980	47,533	233.5%	+63,447	124,914	53,335	234.2%	+71,579	89%	89%	+0%	△1%	△	
	羽田 石垣	273,069	261,049	104.6%	+12,020	318,186	313,294	101.6%	+4,892	86%	83%	+3%	+3%	○	
	静岡 那覇	34,622	33,594	103.1%	+1,028	59,892	59,778	100.2%	+114	58%	56%	+2%	+3%	○	
	東日本エリア計		3,647,196	3,403,165	107.2%	+244,031	4,678,408	4,478,060	104.5%	+200,348	78%	76%	+2%	+3%	○
	名古屋 那覇	522,970	474,971	110.1%	+47,999	644,451	608,263	105.9%	+36,188	81%	78%	+3%	+4%	○	
	名古屋 石垣	45,199	42,321	106.8%	+2,878	59,614	60,727	98.2%	-1,113	76%	70%	+6%	+9%	○	
	中部エリア計		568,169	517,292	109.8%	+50,877	704,065	668,990	105.2%	+35,075	81%	77%	+4%	+5%	○
	伊丹 那覇	587,870	504,226	116.6%	+83,644	805,396	707,566	113.8%	+97,830	73%	71%	+2%	+3%	○	
	関西 那覇	295,424	330,307	89.4%	-34,883	392,830	487,716	80.5%	-94,886	75%	68%	+7%	+9%	○	
	関西 宮古	44,920	17,889	251.1%	+27,031	60,384	19,772	305.4%	+40,612	74%	-		△54%	×	
	関西 石垣	92,458	84,869	108.9%	+7,589	112,547	113,952	98.8%	-1,405	82%	74%	+8%	+10%	○	
	神戸 那覇	220,616	203,778	108.3%	+16,838	304,013	323,317	94.0%	-19,304	73%	63%	+10%	+14%	○	
	岡山 那覇	43,365	44,514	97.4%	-1,149	52,655	52,950	99.4%	-295	82%	84%	-2%	△2%	△	
広島 那覇	69,365	62,633	110.7%	+6,732	98,550	96,654	102.0%	+1,896	70%	65%	+6%	+9%	○		
岩国 那覇	18,088	657	2753.1%	+17,431	35,826	834	4295.7%	+34,992	50%	-		△1543%	×		
高松 那覇	61,374	60,486	101.5%	+888	93,542	93,733	99.8%	-191	66%	65%	+1%	+2%	○		
松山 那覇	38,966	35,505	109.7%	+3,461	60,218	55,055	109.4%	+5,163	65%	64%	+1%	+0%	○		
関西・中四国エリア計		1,472,446	1,344,864	109.5%	+127,582	2,015,961	1,951,549	103.3%	+64,412	73%	69%	+4%	+6%	○	
福岡 那覇	834,160	813,382	102.6%	+20,778	1,169,012	1,157,109	101.0%	+11,903	71%	70%	+1%	+2%	○		
福岡 石垣	10,954	13,519	81.0%	-2,565	17,806	17,888	99.5%	-82	62%	76%	-14%	△19%	×		
長崎 那覇	30,023	27,388	109.6%	+2,635	59,870	46,104	129.9%	+13,766	50%	59%	-9%	△20%	×		
熊本 那覇	34,295	41,847	82.0%	-7,552	45,674	59,506	76.8%	-13,832	75%	70%	+5%	+5%	○		
宮崎 那覇	40,874	40,481	101.0%	+393	63,162	62,814	100.6%	+348	65%	64%	+1%	+0%	○		
鹿児島 那覇	89,931	89,911	100.0%	+20	126,492	125,101	101.1%	+1,391	71%	72%	-1%	△1%	△		
奄美 那覇	9,663	8,715	110.9%	+948	17,785	14,642	121.5%	+3,143	54%	60%	-5%	△11%	×		
与論 那覇	17,554	15,195	115.5%	+2,359	21,057	20,224	104.1%	+833	83%	75%	+8%	+11%	○		
九州エリア計		1,067,454	1,050,438	101.6%	+17,016	1,520,858	1,503,388	101.2%	+17,470	70%	70%	+0%	+0%	○	
国内/合計		6,755,265	6,315,759	107.0%	+439,506	8,919,292	8,601,987	103.7%	+317,305	76%	73%	+3%	+3%	○	
外国	台湾 那覇・石垣	519,325	409,315	126.9%	+110,010	669,302	542,709	123.3%	+126,593	78%	75%	+3%	+4%	○	
	韓国 那覇	463,245	337,769	137.1%	+125,476	569,981	432,325	131.8%	+137,656	81%	78%	+3%	+5%	○	
	中国本土 那覇	110,763	101,152	109.5%	+9,611	141,487	140,003	101.1%	+1,484	78%	72%	+6%	+8%	○	
	香港 那覇	267,351	254,393	105.1%	+12,958	325,677	321,376	101.3%	+4,301	82%	79%	+3%	+4%	○	
外国/合計		1,360,684	1,102,629	123.4%	+258,055	1,706,447	1,436,413	118.8%	+270,034	80%	77%	+3%	+5%	○	

※外国=参考値 上記注釈を参照

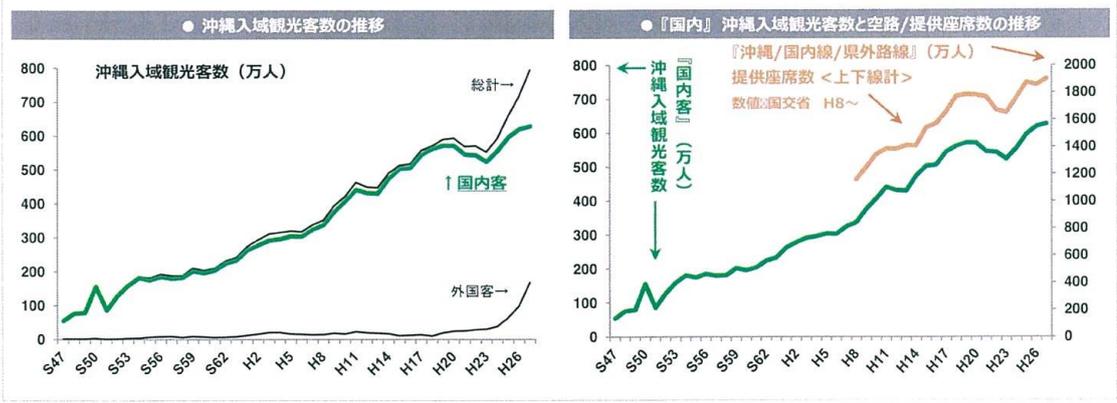
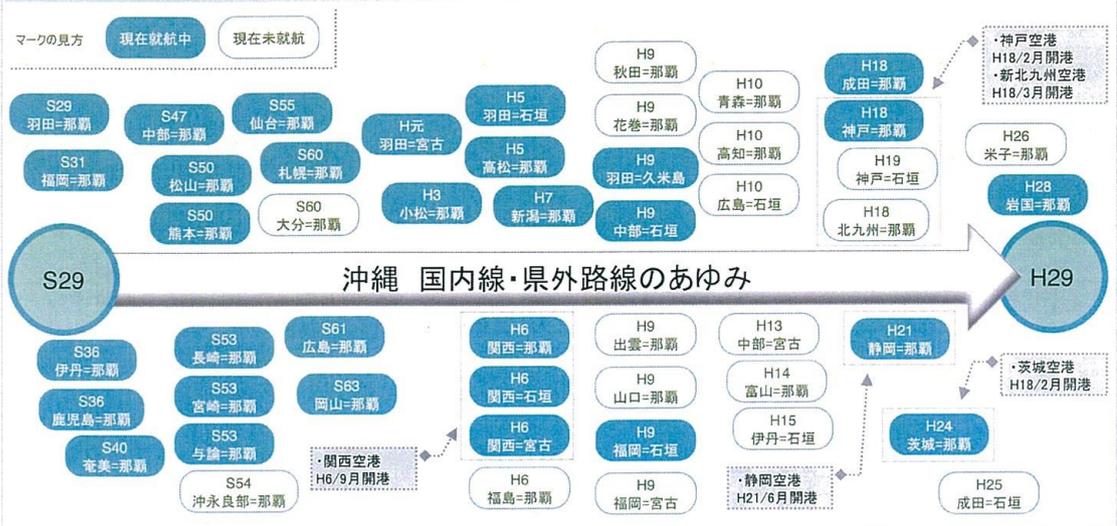


「概況」について ※一部実績が含まれていないため参考としてください。

- 実績(前年比)が、座席提供数(前年比)を上回る
- △ 実績(前年比)が、座席提供数(前年比)を下回る (±0~▲5%)
- × 実績(前年比)が、座席提供数(前年比)を下回る (▲5%以上)

国内 10-1. 【国内航空路線のあゆみ】 沖縄/国内線/県外路線の沿革・実績 ~前半~

H29ウィンターダイヤで沖縄県は、**国内線で県外24都市(30路線)と1日127便**で結ばれています。
 ※ 県内離島路線を含めると、40路線、1日179便となります。
 ※ 以下の記載は、初便就航年を記しており、途中運休・廃止等があり、現在は未就航の路線も含まれています。(H29/4/5現在)



(以下のデータ) 国土交通省、国内線、沖縄と県外を結ぶ定期便、上下線計の需要実績

● 【エリア別】 過去20年の年平均成長率 (%)

	過去5年	過去10年	過去15年	過去20年
東日本	+3.5	+1.8	+2.9	+4.0
中部	+2.5	+0.4	+2.3	+3.3
関中四	+4.7	+1.9	+2.6	+2.5
九州	+3.2	+0.9	+0.8	+1.6
合計	+3.6	+1.6	+2.4	+3.1

● 【エリア別】 過去20年の実績推移 (上下線計)

● 【エリア別】 過去20年の実績シェア推移

● 国内空港Topics (今後の予定)

- ◆ 那覇 / H32・2020年 / 3月 第二滑走路供用開始
- ◆ 羽田 / H32・2020年 / 8月までに39,000回発着増
- ◆ 成田 / H32・2020年 / 8月までに40,000回発着増
- ◆ 福岡 / H36・2024年 / 第二滑走路供用開始

〔国内〕 中部エリア 概況

※中部エリア
名古屋発

		確定実績				OCVB目標値					
		入域数 (人)	前年比 (%)	増減数/対前年 (人)	前々年比 (%)	目標入域数 (人)	目標/対前年 (%)	結果	目標対比 (%)	(人)	
2016年	4月	41,800	99.8	△100	99.1	41,900	100.0	未達成	99.8	△100	
	5月	40,600	107.4	+2,800	115.0	37,800	100.0	達成	107.4	+2,800	
	6月	41,800	112.4	+4,600	111.5	37,400	100.5	達成	111.8	+4,400	
	7月	48,000	112.4	+5,300	106.9	43,500	101.9	達成	110.3	+4,500	
	8月	54,800	113.2	+6,400	108.1	49,600	102.5	達成	110.5	+5,200	
	9月	46,100	113.3	+5,400	113.8	41,300	101.5	達成	111.6	+4,800	
	10月	46,700	107.6	+3,300	125.2	44,000	101.4	達成	106.1	+2,700	
	11月	46,100	113.3	+5,400	113.0	41,100	101.0	達成	112.2	+5,000	
	12月	43,900	112.3	+4,800	114.3	39,500	101.0	達成	111.1	+4,400	
	2017年	1月	41,600	111.5	+4,300	114.9	37,700	101.1	達成	110.3	+3,900
		2月	43,600	106.3	+2,600	116.6	41,500	101.2	達成	105.1	+2,100
		3月	52,700	112.1	+5,700	115.1	47,600	101.3	達成	110.7	+5,100
年度計		547,700	110.2	+50,500	112.5	502,900	101.1	達成	108.9	+44,800	

見通し	OCVB 入域予測	プラス要因	マイナス要因	主なプロモーション
直近3ヶ月の 共通事項		①3月にFDAチャーター「小牧-宮古」6本 ②4月にFDAチャーター「小牧-宮古」3本 ③3月24・26・28日JTAが臨時便を運行 ④5月3・5日JTAが臨時便を運行	①3/2-25 タイ国際航空「中部-バンコク」直行便を運航 ②4/25 JAL「中部-札幌」が30周年 ③5/3 大韓航空がグアムチャーター便を運航 ④6/1-10/27 エア・カナダ「中部-バンクーバー」線就航	○3/10 ZIP-FM沖縄エリアデー 東海TV「スイッチ」番組内広告 ○3/10-12 名古屋ウィメンズマラソンにて沖縄 プース出展 ○3/18-19 旅まつり名古屋2017 3/26-28-30 中日新聞にてANA宮古島線新規 就航広告告知(15段/他)
分析	3月 上記参照	①FDAチャーター「小牧-宮古」が6本設定されており、JTBとHISが販売 ②3月24・26・28日JTAが臨時便を運航 ③3/10にTV・ラジオを活用したプロモーション。日程を合わせて各旅行社、店頭販促を実施 ④学生商品の売行きが好調	①3/2-25期間限定でタイ国際航空が「中部-バンコク」直行便をエアバスA380機材で運航 ②FDALによる宮古チャーター便が多く設定されているものの、現地受入面で不安視されるケースが増加 ③LCCを含めた航空会社の早割航空券の売行きは良いものの、旅行会社のパンフレット商品の動きが弱含み傾向	○4/29-30 ANA中部宮古線新規就航記念イベントinセントレア ○4/29-5/8 静岡沖縄物産展(ららぽーと磐田) ○5/22-7/1 中日ビル屋上ビアガーデンにて沖縄 フェア実施(観光PR・沖縄食材の 提供)
見通し	4月 対前年96% ~ 100%水準	①FDAチャーター「小牧-宮古」が3本設定されており、HISが販売強化中 ②航空会社が私鉄車内にて交通広告を展開、先取仕掛け ③4/29・30セントレア空港にてANA主催「中部-宮古」線新規就航記念沖縄イベントが開催される	①個人商品の発生が遅く、現状動きが鈍化。春休みやGWに人気が集積しており、平日の販売に苦戦 ②沖縄県に限らず、国内全方面がやや不調 ③4/25 JAL「中部-札幌」が30周年を迎え、露出強化	○6/2-6 イオン東海沖縄フェア
見通し	5月 対前年101% 以上水準	①5/3・5日JTAが臨時便を運航、5/3中部発5/5那覇発中心に順調に販売 ②大手パンフレット系旅行社が、重ね売り効果により好調 ③旅行社用航空運賃が引き下げによる増販期待	①間際販売に苦戦する傾向にあり、追い込みが必要なGW明けの販売を不安視 ②昨年よりチャーター便の販売に苦戦	

〔国内〕 九州エリア 概況

※九州エリア
九州(福岡・長崎・熊本・宮崎・鹿児島)発

		確定実績				OCVB目標値					
		入域数 (人)	前年比 (%)	増減数/対前年 (人)	前々年比 (%)	目標入域数 (人)	目標/対前年 (%)	結果	目標対比 (%)	(人)	
2016年	4月	77,400	100.9	+700	106.0	69,600	90.7	達成	111.2	+7,800	
	5月	75,100	98.9	△800	89.7	68,200	89.9	達成	110.1	+6,900	
	6月	75,800	103.8	+2,800	98.8	68,600	94.0	達成	110.5	+7,200	
	7月	88,200	108.8	+7,100	108.2	77,500	95.6	達成	113.8	+10,700	
	8月	106,500	109.0	+8,800	110.1	92,800	95.0	達成	114.8	+13,700	
	9月	90,200	97.8	△2,000	105.7	88,800	96.3	達成	101.5	+1,400	
	10月	88,600	99.8	△200	120.2	85,600	97.5	達成	102.3	+2,000	
	11月	90,600	104.5	+3,900	101.8	84,200	97.1	達成	107.6	+6,400	
	12月	86,800	107.4	+6,000	110.6	79,300	98.1	達成	109.5	+7,500	
	2017年	1月	83,700	105.7	+4,500	105.0	77,300	97.6	達成	108.3	+6,400
		2月	81,400	99.1	△700	104.9	81,000	98.7	達成	100.5	+400
		3月	100,300	103.3	+3,200	107.3	94,900	97.7	達成	105.7	+5,400
年度計		1,044,600	103.3	+33,300	105.6	968,800	95.8	達成	107.8	+75,800	

見通し	OCVB 入域予測	プラス要因	マイナス要因	主なプロモーション
直近3ヶ月の 共通事項		①航空会社の前割り航空券の販売が絶好調 ②学生旅行の販促に期待 ③春休み・GWの学生、家族旅行の予約が好調 ④グループ旅行の先行取り込みが順調	①航空会社の前割り航空券の好調な販売により、旅行商品の売れ行きが鈍い ②地域柄、予約発生が遅いため予約の確保に懸念 ③春先の団体発生が減少	○10月-3月 RKK(熊本放送)のラジオ、テレビによる 沖縄プロモーションおよび旅行各社 による沖縄販促キャンペーン (熊本市内)
分析	3月 上記参照	①航空会社の前割り航空券の販売が絶好調 ②前割り航空券締め切り後の旅行会社商品の販促が順調 ③学生旅行の販促が順調 ④年度末の旅行会社による追い込みセールスが功を奏した	①航空会社の前割り航空券の好調な販売により、旅行商品の売れ行きが鈍かった ②地域柄、予約発生が遅いため予約の確保に苦戦した ③年度末のため、団体旅行の動きが鈍かった	○5/12~13 ~九州のよかとこみちゃってん! ~祭 WITH THE KYUSHU(福岡市内)
見通し	4月 対前年101% 以上水準	①春休み・GWの学生、家族旅行の予約が好調 ②上期スタートの旅行会社によるスタートダッシュのセールスに期待 ③旅行会社の新商品の販促が好調	①年度末の旅行会社による追い込みセールスの反動 ②オフシーズンによる団体発生が減少 ③地域柄、予約発生が遅いため予約の確保に懸念	
見通し	5月 対前年101% 以上水準	①GWの学生、家族旅行の予約が好調 ②グループ旅行の先行取り込みが順調 ③航空会社の前割り航空券の販売が好調 ④個人旅行の間際予約の増加に期待	①地域柄、予約発生が遅いため特にGW期間の予約の確保に懸念 ②グループの予約が週末に集中している為、予約の確保に懸念	

クルーズ船

誘客事業部
海外プロモーション課

● 沖縄県へのクルーズ船寄港の近況

4月のクルーズ船入港は対前年+4寄港増加し、初寄港船も相次ぎました。

4月4日に初寄港した香港ドリーム・クルーズ社『ゲンティンドリーム号』(総トン数153,000トン、乗客定数3,400人)はアジア最大級のプレミアム客船として2016年11月に就航したばかりの新造船で、今年4月から10月まで香港と広州をダブル母港とした5泊6日の沖縄クルーズを行い、那覇港及び宮古島・平良港へ今年計28回ずつ寄港を予定しています。

同船は5月5日から6月16日まで船内で沖縄フェスティバルを開催し、オリオンビールや泡盛など沖縄特産品の提供、三線や琉装体験などの催しを行う予定です。

4月6日に初寄港したドイツに本社を置くアイダクルーズ社『アイダ・ベラ』(総トン数69,203トン、乗客定員2,030人)は今年からアジアに進出し、上海=基隆間の周遊クルーズで石垣と那覇へ寄港しました。

4月14日に初寄港したコスタクルーズ社『コスタ・ネオロマンチカ』(総トン数57,150トン、乗客定員1,800人)は基隆を出港し、宮古、那覇、石垣に寄港しました。今後はプサンや日本各地を含めた周遊クルーズを予定しています。

これから夏にかけては『ボイジャー・オブ・ザ・シーズ』などオーバーナイトで寄港するクルーズ船も増加し、ゆっくりと沖縄を観光するクルーズ客も増える予定です。

プレミアム客船や欧米船の寄港によって多様な国籍や客層が沖縄を訪れており、沖縄県、OCVB、市町村、港湾および関係機関が連携して満足度向上や受入体制強化に向けて取り組んでいます。



■ 那覇港 入港予定 ※ 3月31日付け

2017年5月				※ 対前年 ▲8寄港						
入港予定	出港予定	船名	総トン数	旅客定員	接岸	乗客国籍				
5/2 火 8:00	5/2 火 18:00	SUPERSTAR AQUARIUS	51,309	2,100	泊8	台湾				
5/2 火 12:00	5/3 水 16:00	GENTING DREAM	151,300	3,400	新港9,10	中国				
5/9 火 8:00	5/9 火 18:00	SUPERSTAR AQUARIUS	51,309	2,100	泊8	台湾				
5/9 火 17:00	5/10 水 1:00	GENTING DREAM	151,300	3,400	新港9,10	中国				
5/13 土 15:00	5/13 土 23:00	Mariner of the Seas	137,276	3,114	泊8	中国				
5/15 月 7:00	5/15 月 17:00	DIAMOND PRINCESS	115,875	2,674	泊8	日本				
5/16 火 8:00	5/16 火 18:00	SUPERSTAR AQUARIUS	51,309	2,100	泊8	台湾				
5/16 火 17:00	5/17 水 1:00	GENTING DREAM	151,300	3,400	新港9,10	中国				
5/17 水 8:00	5/17 水 19:00	COSTA SERENA	114,147	3,780	泊8	中国				
5/19 金 8:00	5/19 金 20:00	SAPPHIRE PRINCESS	116,000	2,670	泊8	台湾				
5/22 月 8:00	5/22 月 20:00	SAPPHIRE PRINCESS	116,000	2,670	泊8	台湾				
5/23 火 8:00	5/23 火 18:00	SUPERSTAR AQUARIUS	51,309	2,100	泊8	台湾				
5/23 火 17:00	5/24 水 1:00	GENTING DREAM	151,300	3,400	新港9,10	中国				
5/29 月 7:00	5/29 月 15:00	CHINESE TAISHAN	24,427	1,653	泊8	中国				
5/30 火 8:00	5/30 火 18:00	SUPERSTAR AQUARIUS	51,309	2,100	泊8	台湾				
5/30 火 17:00	5/31 水 1:00	GENTING DREAM	151,300	3,400	新港9,10	中国				
5/31 水 8:00	5/31 水 20:00	Mariner of the Seas	137,276	3,114	泊8	中国				

2017年6月				※ 対前年 +5寄港						
入港予定	出港予定	船名	総トン数	旅客定員	接岸	乗客国籍				
6/1 木 13:00	6/2 金 11:00	Voyager of the Seas	137,276	3,114	泊8	中国				
6/2 金 13:30	6/2 金 22:00	SAPPHIRE PRINCESS	116,000	2,670	泊8	台湾				
6/3 土 12:00	6/3 土 19:00	DIAMOND PRINCESS	115,875	2,674	泊8	日本				
6/5 月 13:30	6/5 月 22:00	SAPPHIRE PRINCESS	116,000	2,670	泊8	台湾				
6/6 火 8:00	6/6 火 18:00	SUPERSTAR AQUARIUS	51,309	2,100	泊8	台湾				
6/6 火 17:00	6/7 水 1:00	GENTING DREAM	151,300	3,400	新港9,10	中国				
6/7 水 7:00	6/7 水 19:00	SUPERSTAR VIRGO	75,338	1,960	泊8	台湾				
6/9 金 13:30	6/9 金 22:00	SAPPHIRE PRINCESS	116,000	2,670	泊8	台湾				
6/10 土 8:00	6/10 土 18:00	SKYSEA Golden Era	72,458	2,163	泊8	中国				
6/11 日 10:00	6/11 日 19:00	SUPERSTAR VIRGO	75,338	1,960	泊8	台湾				
6/12 月 13:30	6/12 月 22:00	SAPPHIRE PRINCESS	116,000	2,670	泊8	台湾				
6/13 火 8:00	6/13 火 18:00	SUPERSTAR AQUARIUS	51,309	2,100	泊8	台湾				
6/13 火 17:00	6/14 水 1:00	GENTING DREAM	151,300	3,400	新港9,10	中国				
6/14 水 8:00	6/14 水 20:00	Mariner of the Seas	137,276	3,114	泊8	中国				
6/14 水 6:00	6/14 水 15:00	SKYSEA Golden Era	72,458	2,163	新港9,10	中国				
6/16 金 13:30	6/16 金 22:00	SAPPHIRE PRINCESS	116,000	2,670	泊8	台湾				
6/17 金 13:00	6/18 土 13:00	COSTA FORTUNA	102,587	3,470	泊8	台湾				
6/18 日 15:00	6/18 日 23:59	SUPERSTAR VIRGO	75,338	1,960	泊8	台湾				
6/19 月 13:30	6/19 月 22:00	SAPPHIRE PRINCESS	116,000	2,670	泊8	台湾				
6/20 火 8:00	6/20 火 18:00	SUPERSTAR AQUARIUS	51,309	2,100	泊8	台湾				
6/20 火 17:00	6/21 水 1:00	GENTING DREAM	151,300	3,400	新港9,10	中国				
6/21 水 10:00	6/21 水 19:00	SUPERSTAR VIRGO	75,338	1,960	泊8	台湾				
6/22 木 9:00	6/22 木 20:00	SKYSEA Golden Era	72,458	2,163	泊8	中国				
6/23 金 13:30	6/23 金 22:00	SAPPHIRE PRINCESS	116,000	2,670	泊8	台湾				
6/25 日 7:00	6/25 日 17:00	DIAMOND PRINCESS	115,875	2,674	泊8	日本				
6/26 月 13:30	6/26 月 22:00	SAPPHIRE PRINCESS	116,000	2,670	泊8	台湾				
6/27 火 8:00	6/27 火 18:00	SUPERSTAR AQUARIUS	51,309	2,100	新港7	台湾				
6/27 火 22:00	6/28 水 16:00	Voyager of the Seas	138,194	3,114	泊8	中国				
6/27 火 17:00	6/28 水 1:00	GENTING DREAM	151,300	3,400	新港9,10	中国				

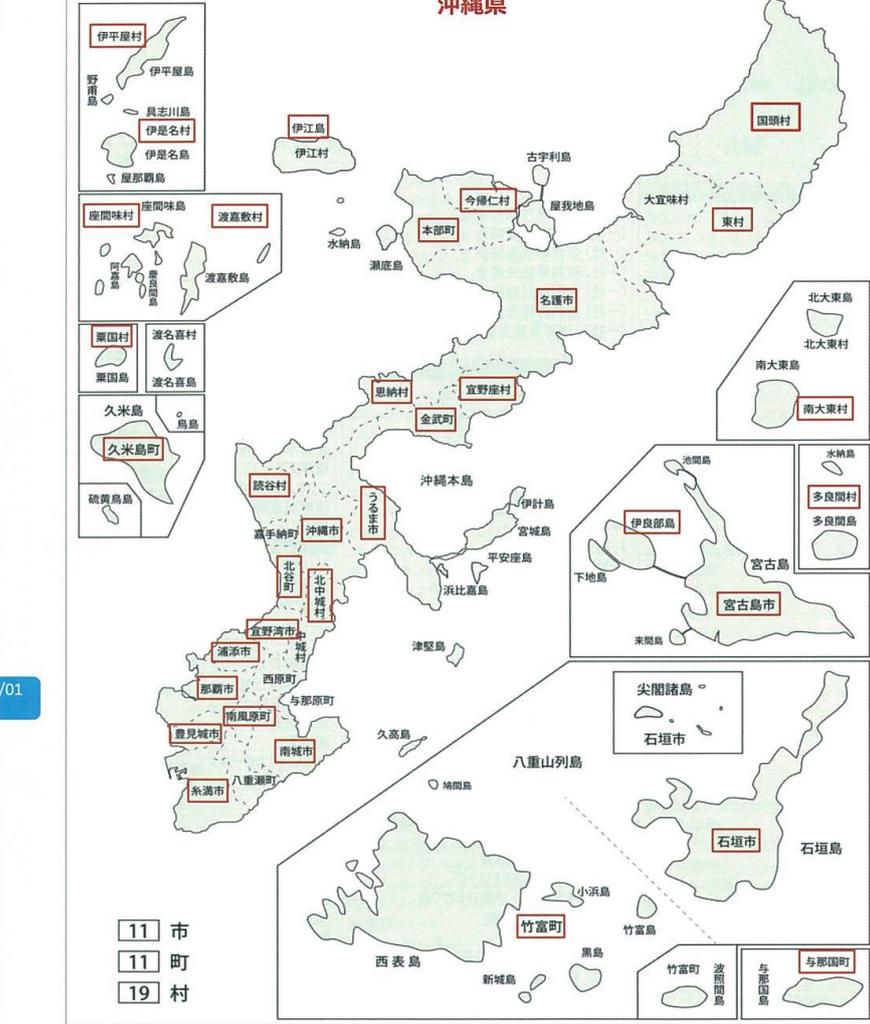
※詳しい入港予定は、

- ◇那覇港 <http://www.nahaport.jp/kyakusen/sinnyuukouyotei2016-2017.html>
- ◇石垣港 <http://www.city.ishigaki.okinawa.jp/home/kensetsubu/kouwan/index.htm>
- ◇平良港 <http://www.city.miyakojima.lg.jp/soshiki/shityo/kensetsu/kouwan/>

沖縄県地域観光協会等一覧 (34団体)

(敬称略) 平成29年4月14日 現在
※未記載部分は集計中

◇本島	
(一社)糸満市観光協会 代表理事:久保田 徹 会員数:130	
浦添市観光協会 会長:水田 正明 会員数:110	
(一社)うるま市観光物産協会 理事長:伊佐 盛男 会員数:158	
(一社)沖縄市観光物産振興協会 会長:仲村 富吉 会員数:178	
(一社)恩納村観光協会 会長:照屋 修興 会員数:11	
北中城村観光協会 会長:花崎 為継 会員数:10	
(一社)宜野座村観光協会 会長:仲本 彰 会員数:53	
(一社)宜野湾市観光振興協会 会長:高江洲 義之 会員数:135	
金武町観光協会 会長:奥間 尚登 会員数:15	
(一社)国頭村観光協会 会長:金城 茂	2017/4/01 設立
(一社)北谷町観光協会 会長:渡眞利 聡 会員数:117	
(一社)豊見城市観光協会 会長:大城 勤 会員数:71	
(一社)今帰仁村観光協会 会長:新城 正巳 会員数:91	
(公財)名護市観光協会 理事長:前田 裕子 会員数:185	
(一社)那覇市観光協会 会長:佐久本 武 会員数:431	
(一社)南城市観光協会 会長:宮城 源幸 会員数:130	
(一社)南風原町観光協会 会長:照屋 盛夫 会員数:74	
NPO法人東村観光推進協議会 会長:吉本 淳 会員数:77	
(一社)本部町観光協会 会長:富山 清博 会員数:148	



(一社)読谷村観光協会 会長:澤岨 カズ子 会員数:75	
◇離島	
(一社)粟国村観光協会 会長:伊佐 文宏 会員数:10	
(一社)伊江島観光協会 会長:古堅 幸一 会員数:142	
(一社)石垣市観光交流協会 会長:高嶺 良晴 会員数:333	
(一社)いげな島観光協会 会長:名嘉 清光 会員数:69	

伊平屋島観光協会 会長:名嘉 律夫 会員数:25
いらぶ観光協会 会長:中村 雅弘
(一社)久米島町観光協会 会長:比嘉 護 会員数:145
(一社)座間味村観光協会 会長:宮里 哲 会員数:108
竹富町観光協会 会長:上亀 直之 会員数:127

多良間村観光協会 会長:富盛 玄三 会員数:18
渡嘉敷村商工会 会長:新垣 徹
(一社)南大東村観光協会 会長:垣花 恵忠 会員数:14
(一社)宮古島観光協会 会長:豊見山 健児 会員数:200
与那国町観光協会 会長:崎元 俊男 会員数:58

◇設立準備中 与那原町 観光商工課
◇市町村 観光窓口 ※観光協会等の無い市町村のみを記載しています。
大宜味村 企画観光課
嘉手納町 産業環境課
北大東村 経済課
渡名喜村 経済課
中城村 企業立地観光推進課
西原町 産業課
八重瀬町 観光振興課